

ISSN 1345-580X

社会学文献目録

Bibliography of Japanese Sociology

Vol. 4.

2001

日本社会学会データベース委員会
Database Committee, Japan Sociological Society

『社会学文献目録』Vol.4を発行できる運びとなり、今年度はVol.3と併せて2冊の冊子
を発行することになる。これで、文献調査を行ったその年にデータベース化し、冊子とし
ても公開するよう、一定の質を確保しつつスピードアップが図られたことになる。2年分
を1分冊の形にすることも当初考えられたのであるが、年度別の形をとることも利用上
の便があると考え、このような形をとった。

本号は2001年分の社会学文献を収録しており、その件数は約900件である。2000年の
件数に比べると減少している。発表される著作・論文等の数が減少していないとすれば、
それらの集約方法にはほぼ変わりはないので、なにか問題があったのではないかと危惧
している。この点については今後当委員会として検討する予定である。

現在データベース委員会は、社会学の各分野にわたる文献を、戦前のもも含めて、デ
ータベース化する大規模な作業に取り組んでいる。その作業の中で当委員会の全員がかな
りの驚きをもって痛感させられた事実がある。それは、いかなる事情か、過去において作
成された文献目録にきわめて多くの間違いが見出されることである。その原因の一つとし
て、初発のデータ集約の段階において、データの正確さの確認が十分に行えなかった諸事
情があったのではなかろうかとわれわれは想像している。

その意味からすれば、社会学文献を毎年正確に集約していく作業は、煩瑣ではあっても、
将来的にきわめて大きな意義を有するものと考えなければならないであろう。

最初の段階で集約されるデータの正確さの確認作業は想像を超えて根気と手数に要する仕
事である。しかしその作業に注がれる努力の大小によって、データベースの精度はほぼ決
定されるようである。

社会学会として有数のデータベースを構築するために、改めて学会員諸氏のご協力をお
願いする次第である。

現在、本冊子の収録情報も含め、社会学文献に関する情報は下記のサイトを通しても提
供しています（ただし、それらの間に公開のタイミングに差が生じることもあります）。
それらを活用していただくと共に、文献情報に関連してお気づきの点がありましたら、下
記直轄サイトにお寄せ下さい。

【1】「社会学文献情報データベース」の検索サービス（2002年10月現在）

・直轄サイト[どなたでも無料で利用できます]

・富山大学サイト <http://www.hmt.toyama-u.ac.jp/socio/jss/>

(データの補足・修正・重複報告も受付)

・東北大学サイト <http://www.nik.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/sociodb/>

(本冊子やデータベースについてのご意見も受付)

- ・国立情報学研究所 [利用登録をした機関・個人のみ利用できます]
NACSIS-IR <http://www.nii.ac.jp/ir/ir-j.html>

【2】「学術雑誌目次速報データベース」の目次ページ (国立情報学研究所)
[下記はどなたでも無料で利用できます]

- ・『社会学評論』目次：<http://www.nii.ac.jp/sokuho/articles/VAN00109823.html>
- ・IJJS 目次：<http://www.nii.ac.jp/sokuho/articles/VAA1104725X.html>

【3】本冊子の収録内容

・収録範囲

次の1)～3)の文献のうち、2001年に刊行された文献。ただし本冊子では、文献資料種別が「IV. その他」の著作(書評等;書評論文は収録)は紙幅の関係で割愛した。

- 1) 日本社会学会・社会学関連学会(現在は家族社会学会のみ)会員著作の社会学関係文献(学会員への文献調査回答に基づく)
- 2) 『社会学評論』の掲載記事
- 3) *International Journal of Japanese Sociology (IJJS)* の掲載記事

・掲載件数： 約 900 件

- ・字体： ウェブサイトでは表示が困難な JIS 第 1・2 水準外の文字(拡張漢字、中国等の漢字、ハングル、アクサン等の音標符号付アルファベット、等)も本来の表記で印刷。

本冊子の刊行を含め、「社会学文献情報データベース」の構築に当たっては、文部科学省より科学研究費研究成果公開促進費<データベース>の助成を得た。

目 次 (CONTENTS)

はしがき (Preface)	iii
I. 著書・編書の部 (Books)	1
II. 翻訳の部〔日本語訳〕 (Translations into Japanese)	4
III. 論文の部 (Articles)	5
1. 社会哲学・社会思想・社会学史 (Social Philosophy, Social Thought, History of Sociology)	5
2. 一般理論 (General Theory)	7
3. 社会変動論 (Social Change)	8
4. 社会集団・組織論 (Social Group, Organization)	8
5. 階級・階層・社会移動 (Class, Stratification, Social Mobility)	9
6. 家 族 (Family)	10
7. 農漁山村・地域社会 (Rural/Fishing/Mountain Village, Community)	12
8. 都 市 (Urban Society)	13
9. 生活構造 (Life Structure)	14
10. 政治・国際関係 (Politics, International Relations)	14
11. 社会運動・集合行動 (Social Movement, Collective Behavior)	15
12. 経営・産業・労働 (Management, Industry, Labor)	15
13. 人 口 (Population)	16
14. 教 育 (Education)	17
15. 文化・宗教・道徳 (Culture, Religion, Morality)	18
16. 社会心理・社会意識 (Social Psychology, Social Consciousness)	20
17. コミュニケーション・情報・シンボル (Communication, Information, Symbol)	20
18. 社会病理・社会問題 (Social Pathology, Social Problems)	21
19. 社会福祉・医療 (Social Welfare, Medical Care)	22
20. 計画・開発 (Planning, Development)	23
21. 社会学研究法 (Research Methods in Sociology)	23
23. 社会史・民俗・生活史 (Social History, Folklore, Life History)	24
24. 法 律 (Law)	24
25. 民族問題・ナショナリズム (Ethnic Problems, Nationalism)	24
27. 比較社会・地域研究〔エリアスタディ〕 (Comparative Study, Area Study)	25
26. 差別問題 (Discrimination Problems)	26
28. 性・世代 (Gender, Generation)	26
29. 知識・科学 (Knowledge, Science)	27
30. 余暇・スポーツ (Leisure, Sports)	27
31. 環 境 (Environment)	28

I. 著書・編書の部 (Books)

- 阿部勘一・細川周平・塚原康子・東谷 護・高澤智昌『プラスバンドの社会史：軍楽隊から歌伴へ』(242p. 青弓社 1600円)
- 安立清史・小川全夫『ニューエイジング：日米の挑戦と課題』(118p. 九州大学出版会 1400円)
- 安立清史・杉岡直人(編)『社会福祉養成テキストブック(14)：社会学』(190p. ミネルヴァ書房 2600円)
- 愛知労働問題研究所(編)『あいちの労働と生活：生活』(124p. 愛知労働問題研究所 1500円)
- 天野正子(編)『団塊世代・新論：〈関係的自立〉をひらく』(236p. 有信堂 2800円)
- 天野正子『卒業生・修了生のライフコースと国立女子大学の将来像に関する調査結果報告書』(322p. お茶の水女子大学企画広報室 非売品)
- Arimoto, Akira(ed.) 'University Reforms and Academic Governance: Reports of the 2000 Three-Nation Workshop on Academic Governance' 145p. Higashi-Hiroshima: Research Institute for Higher Education, Hiroshima Univ. 非売品
- 朝水宗彦『オーストラリアのエスニシティ』(287p. 文芸社 1400円)
- 朝水宗彦『オーストラリアの観光と食文化』(176p. 学文社 2000円)
- 朝水宗彦『多文化社会オーストラリアにおけるエスニック・ツーリズム形成過程に関する研究』(382p. くんぶる 3600円)
- 朝水宗彦『北アメリカ・オセアニアのエスニシティと文化』(178p. くんぶる 2200円)
- 芦田徹郎『祭りと宗教の現代社会学』(344p. 世界思想社 2300円)
- 鮎川 潤『少年犯罪：ほんとうに多発化・凶悪化しているか』(217p. 平凡社 660円)
- 馬場靖雄『ルーマンの社会理論』(222p. 勁草書房 2800円)
- 馬場靖雄(編)・北田暁大・竹中 均・花野裕康・園田浩之・表 弘一郎『反＝理論のアクチュアリティ』(244p. ナカニシヤ出版)
- 江川 茂『共同体論』(50p. 水戸市福祉作業所 2000円)
- 江原武一(編)『公教育の宗教的寛容性および共通シラバスに関する国際比較研究(平成11～12年度科学研究費補助金研究成果報告書)』(188p. 京都大学大学院教育学研究課比較教育学研究室 非売品)
- 江原由美子(編)『フェミニズムとリベラリズム』(255p. 勁草書房)
- 江原由美子『ジェンダー秩序』(435p. 勁草書房 3500円)
- 榎本和子『社会福祉学要論』(208p. 行路社 1200円)
- 船橋晴俊(編)『講座環境社会学 第2巻：加害・被害と解決過程』(271p. 有斐閣 2900円)
- 船橋晴俊・角 一典・湯浅陽一・水澤弘光(編)『「政府の失敗」の社会学：整備新幹線建設と旧国鉄長期債務問題』(286p. ハーベスト社 2900円)
- 船津 衛(編)『アメリカ社会学の潮流』(303p. 恒星社厚生閣 4200円)
- 後藤一蔵『消防団の源流をたどる：21世紀の消防団の在り方』(220p. 近代消防社 2381円)
- 浜口晴彦・嵯峨座晴夫『定年のライフスタイル』(199p. コロナ社 1700円)
- 原 俊彦『狩猟採集から農耕社会へ：先史時代ワールドモデルの構築』(278p. 勉誠出版 1500円)
- 原田勝弘・水谷史男・和気健太(編)『社会調査論：フィールドワークの方法』(244p. 学文社)
- 原田 達『鶴見俊輔と希望の社会学』(253p. 世界思想社 2000円)
- 橋本健二『階級社会日本』(276+vp. 青木書店 2700円)
- 橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』(243p. 筑摩書房 1800円)
- 橋爪大三郎『政治の教室』(235p. PHP研究所 660円)
- 橋爪大三郎・金井壽宏『強いサラリーマン、へたばる企業』(363p. 広済堂出版 1600円)
- 橋爪大三郎・田原総一郎(編)・猪瀬直樹・笠原十九司・姜 尚中・草野 厚・小池百合子・辻本清美・土門周平・中村 繁・秦 郁彦・山田 朗『日本はなぜ負ける戦争をしたのか』(239p. アスキー 1500円)
- 橋爪大三郎; ヴォーゲル, エズラ『ヴォーゲル, 日本とアジアを語る』(243p. 平凡社 740円)
- 早川洋行『(株)RDエンジニアリング産業廃棄物最終処分場周辺住民生活影響調査報告書』(87p. 滋賀大学産業共同研究センター 非売品)
- 樋口晟子・原山 哲『看護における仕事の文化と女性の地位に関する研究(科研費研究成果報告書)(H9～H12)』(86p. 東北福祉大学 非売品)
- 広田照幸(編)『近代化過程における中等教育の機能変容に関する地域間比較研究』(232p. 広田照幸 非売品)
- 広田照幸『教育言説の歴史社会学』(392p. 名古屋大学出版会 3800円)
- 広田照幸・吉田 文・高瀬雅弘・寺崎里水・森 直人・仁平典宏『大都市流入：定住者の家族形成と居住形態の変容に関するライフコース的研究』(92p. 財団法人第一住宅建設協会 非売品)
- 堀内圭子『「快樂消費」の追究』(248p. 白桃書房 2600円)
- 保坂恵美子『高齢者と女性の福祉社会学』(673p. あきみず書房 9000円)
- 茨城の占領時代研究会(編)『茨城の占領時代：研究会報告書 40人の証言(2分冊)』(790p. 茨城新聞社 4800円)
- 飯田哲也・中川順子・浜岡政好(編)『現代熟年の職場問題』(224p. 法律文化社 2600円)

- 飯島伸子(編)『アジアと世界：地域社会からの視点(講座環境社会学 第5巻)』(269p. 有斐閣 2800円)
- 飯島伸子(編)・藤川 賢・鶴飼照喜・神長 唯・堀畑まなみ・山田修嗣・寺田良一(著)『廃棄物問題の環境社会学的研究：事業所・行政・消費者の関与と対処』(286p. 東京都立大学出版会 1560円)
- 飯島伸子・鳥越皓之・長谷川公一・松橋晴俊(編)『環境社会学の視点(講座環境社会学 第1巻)』(271p. 有斐閣 2800円)
- 今田高俊・鈴木正仁・黒石 晋(編)『複雑系を考える：自己組織性とは何かII』(290p. ミネルヴァ書房 2800円)
- 井上 真・宮内泰介(編)『シリーズ環境社会学・2・ commons の社会学：森・川・海の資源共同管理を考える』(251p. 新曜社 2400円)
- 井上真理子・神原文子・榎本博明『人権についての市民意識調査報告書』(122p. 豊中市役所 非売品)
- 井上真理子・南野佳代・加茂直樹・横田俊二・楨村久子・竹安栄子『ジェンダーと社会：2000年度FD研究報告書』(76p. 京都女子大学現代社会学部 非売品)
- 井上孝夫『現代環境問題論：理論と方法の再 positioning のために』(209p. 東信堂 2300円)
- 石田 仁・矢島正見(編)・三橋順子・鶴田幸恵・谷口洋幸・中間湧司『戦後日本〈トランスジェンダー〉社会史III：基礎研究・資料統編』(151p. 戦後日本〈トランスジェンダー〉社会史研究会 非売品)
- 石附 実・笹森 健(編)『オーストラリア・ニュージーランドの教育』(247p. 東信堂 2800円)
- 石川義之(編)『性的虐待の被害者についての調査研究：女性が受けた性的被害：大阪コミュニティ調査から』(242p. 女性のトラウマを考える会 非売品)
- 岩城完之『レイモン・アロン』(130p. 東信堂 1800円)
- 上林千恵子(編)『大都市若年アルバイトの就労』(149p. 東京都立労働研究所 非売品)
- 上林千恵子(編)・佐野長秀・山下大厚・山田昌弘・武川正吾・前田信彦『少子化社会における勤労者の仕事観・家族観』(129p. 連合総合生活開発研究所 非売品)
- 亀山佳明『子どもと悪の人間学：子どもの再発見のために』(284p. 以文社)
- 鐘ヶ江晴彦『外国人労働者の人権と地域社会：日本の現状と市民の意識・活動』(310p. 明石書店 3800円)
- 金子 勇・森岡清志(編)『都市化とコミュニティの社会学』(347p. ミネルヴァ書房 4800円)
- 鹿又伸夫『機会と結果の不平等：世代間移動と所得・資産格差』(256p. ミネルヴァ書房 3500円)
- 鹿又伸夫・野宮大志郎・長谷川計二(編)『質的比較分析』(220p. ミネルヴァ書房 3500円)
- 櫻村愛子・情況出版編集部『「近代社会/社会学の解体と精神分析：あるいは vanishing mediator としての社会学：精神分析：「社会学理論の〈可能性〉を読む」』(302p. 情況出版 2600円)
- 加藤彰彦『家族形成のダイナミクス』(144p. 日本家族社会学会 全国家族調査研究会 非売品)
- 加藤晴明『メディア文化の社会学』(204p. 福村出版 2300円)
- 川端 亮・田中重人(編)『吹田市民のコミュニティ・ネットワークに関する調査報告書』(iv+183p. 大阪大学大学院人間科学研究科社会環境学講座先進経験社会学研究分野 非売品)
- 川上善郎(編)・高木 修(監修)『情報行動の社会心理学』(143p. 北大路書房 2500円)
- 川人貞史・吉野 孝・平野 浩・加藤淳子『現代の政党と選挙』(281p. 有斐閣 1800円)
- 吉川 徹『学歴社会のローカル・トラック：地方からの大学進学』(245p. 世界思想社 2000円)
- 木下謙治(編)『家族社会学：基礎と応用』(226p. 九州大学出版会 2500円)
- 木下謙治・小川全夫(編)『家族福祉社会学の現在』(294p. ミネルヴァ書房 3500円)
- 北村 寧・佐久間孝正・藤山嘉夫(編)『新世紀社会と人間の再生』(241p. 八朔社 3500円)
- Komai, Hiroshi 'Foreign Migrants in Contemporary' 230p. Trans Pacific Press. 3600円
- 駒井 洋『新生カンボジア』(257p. 明石書店 2800円)
- 駒井 洋『日本新生の構想』(312p. 筑波大学大学院社会科学部)
- 小松楠緒子『医者-患者の協同参加型モデル：Deep-Value-Pairingモデルを超えて』(155p. 東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻 非売品)
- 国広陽子『主婦とジェンダー：現代の主婦像の解明と展望』(298p. 尚学社 5238円)
- 倉橋重史『絵画社会学素描IV』(245p. 晃洋書房)
- 黒田浩一郎(編)『医療社会学のフロンティア：現代医療と社会』(234p. 世界思想社 1900円)
- 牧野暢男・千葉聡子・飯嶋香織・高野良子・中村三緒子・中山昌弘・飛世聡子・本多美絵子『青少年の規範学習と逸脱抑制に関する研究』(153p. 青少年の発達環境研究会 非売品)
- Manabe, Kazufumi 'Facet Theory and Studies of Japanese Society: From a Comparative Perspective' 320p. Bonn, Germany: Bier'sch Verlagsanstalt.
- 圓田浩二『誰が誰に何を売っているのか？：援助交際における性・愛・コミュニケーション』(295p. 関西学院大学出版会 3800円)
- ましこひでのり『増補版 イデオロギーとしての「日本」：「国語」「日本史」の知識社会学』(363p. 三元社 3200円)
- 増子健一『権力エリート論』(EXP)
- Matsuda, Hiroshi 'Intorno al Metodo di Gramsci' Firenze: L.S.Olschki.
- 松野達雄『自由と平和』(564p. 無極堂 非売品)
- 松本和良・江川直子(編)・武田朋久・大黒正伸・清水強志・小林孝雄『アイヌ民族とエスニシティの社会学』

- (vii+325p. 学文社 6700円)
- 三重野 卓(編)『福祉国家の社会学：21世紀における可能性を探る』(195p. 東信堂 2000円)
- 三木 英(編)・渡邊 太・岡尾政秀・三浦太郎(著)『復興と宗教：震災後の人と社会を癒すもの』(230p. 東方出版 2500円)
- Mitsuda, Hisayosi; P. j. Mol, Arthur: Spaargaren, Gert 'Ecological Modernisation Theory: Reader' 283p. Wageningen University Press. 非売品
- 森 元孝『アルフレッド・シュツ：主観的時間と社会的空間』(172p. 東信堂 1800円)
- NIRAシティズンシップ研究会(編)『多文化社会の選択：「シティズンシップ」の視点から』(305p. 日本経済評論社 2500円)
- 内藤考至『構造と誇り：階層の社会心理』(242p. 高文堂出版 2857円)
- 中野克彦・阿部 敦『外国人住民の生活相談とボランティア：実証的ボランティア論の構築に向けて』(106p. ぎょうせい 1300円)
- 直井道子『幸福に老いるために：家族と福祉のサポート』(214p. 勁草書房 3000円)
- 日本労働研究機構・連合総合生活開発研究所(編)・佐藤博樹・山口純子・千葉隆之・木村琢磨『多様な就業形態の組合せと労使関係に関する調査研究報告書』(167p. 日本労働研究機構・連合総合生活開発研究所 非売品)
- 日本社会学会データベース委員会(編)『社会学文献目録(Vol.2(1999年版))』(49p. 日本社会学会 非売品)
- 日本社会学会社会学教育委員会『社会調査士(仮称)資格問題に関する検討報告書』(64p. 日本社会学会社会学教育委員会 非売品)
- 西山俊彦『カトリック教会と沖縄戦：『平和への決意』の実行を祈りつつ』(337p. サンパウロ 1800円)
- 野々垣友枝『1789年フランス革命論：不安と不満の社会学』(387p. 大学教育出版 3600円)
- 野々垣友枝『新しい社会運動論：全共闘世代のトラウマを通して』(175p. 実践社 2000円)
- 野々山久也・清水浩昭(編)『家族社会学の分析視覚』(422p. ミネルヴァ書房 3800円)
- 小川賢治『イギリスの栄典制度』(111p. 京都学院大学 非売品)
- 小川全夫『高齢者の地理的移動と地域再組織化の過程』(192p. 九州大学人間環境学研究院 非売品)
- 荻野勝行・貫名 讓『考えて学ぶ：宗教・仏教・真宗』(110p. 杉山書店 2000円)
- 岡本智周『国民史の変貌：日米歴史教科書とグローバル時代のナショナリズム』(276p. 日本評論社 2800円)
- 奥田道大・鈴木久美子(編)『「調査報告書」アジアの新宿・池袋 PART III：現地面接調査記録コレクションズ』(164p. 中央大学大学院社会学科研究室 非売品)
- 奥田道大・鈴木久美子(編)『エスノボリス・新宿/池袋：来日10年目のアジア系外国人調査記録』(274p. ハーベスト社 2600円)
- 奥村 隆『エリアス：暴力への問い』(385p. 勁草書房 3800円)
- 小内 透・酒井恵真(編)・湯元 誠・北沢梅英・小内純子・小野寺理佳・古久保さくら・佐藤政司『日系ブラジル人の定住化と地域社会：群馬県太田・大泉地区を事例として』(376p. お茶の水書房 6800円)
- 恩田守雄『開発社会学：理論と実践』(456p. ミネルヴァ書房 3800円)
- 大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所(編)『日本版 General Social Surveys(JGSS)第2回予備調査基礎集計表・コードブック』(東京大学社会科学研究所 非売品)
- 小谷(三浦)典子『産業都市における生活環境の創造と企業の社会的貢献』(227p. 山口大学人文社会学研究室 非売品)
- Rausch, Anthony 'A Year with the Local Newspaper: Understanding the Times in Aomori, Japan, 1999' 231p. University Press of America. 5000円
- 嵯峨座晴夫(編)『少子高齢社会と子どもたち』(225p. 中央法規出版 3000円)
- 桜井哲夫『フーコー(知の教科書)』(206p. 講談社 1400円)
- 佐々木陽子『総力戦と女性兵士』(190p. 青弓社 1600円)
- 笹谷春美・小内 透・吉崎祥司(編)・杉橋やよい・小内純子・中道仁美・古田睦美・徳川直人・都築くるみ『階級・ジェンダー・エスニシティ：21世紀の社会学の視角』(248p. 中央法規出版 2800円)
- 里深文彦『環境を軸に生活をデザインする』(54p. 社団法人生活経済政策研究所 762円)
- 性風俗問題調査研究委員会(矢島正見(代表)・岩井宜子・樋田大二郎・山本 功)『店舗型性風俗特殊営業(モーター・ラブホテル)調査研究報告』(117p. 財団法人社会安全研究財団 非売品)
- 柴野昌山(編)『文化伝達の社会学』(336p. 世界思想社 2300円)
- 清水新二(編)『共依存とアディクション：心理・家族・社会』(305p. 培風館 3600円)
- 白樫 久『地域社会の変動と住民』(261p. アカデミア出版 2900円)
- 数土直紀『理解できない他者と理解されない自己：寛容の社会理論』(263p. 勁草書房 2900円)
- 杉浦郁子(編)・矢島正見・松葉ゆかり・三橋順子『松葉ゆかりのライフヒストリー：戦後日本<トランスジェンダー>社会史IV』(147p. 戦後日本<トランスジェンダー>社会史研究会 非売品)
- 住田正樹(編)『子どもたちの「居場所」と対人的世界の現在』(234p. 九州大学)
- 住田正樹『地域社会と教育：子どもの発達と地域社会』(398p. 九州大学出版会 5700円)
- 鈴木正崇『神と仏の民俗』(344p. 吉川弘文館 6800円)
- 多賀 太『男性のジェンダー形成：〈男らしさ〉の揺らぎのなかで』(210p. 東洋館出版社 4200円)

- 田口宏昭『病気と医療の社会学』(294p. 世界思想社 2200円)
- 高島昌二『スウェーデンの社会福祉』(334p. ミネルヴァ書房 4200円)
- 玉野和志『都市コミュニティの社会的形成過程に関する実証的研究』(153p. 平成10年度～12年度科学研究費補助金研究成果報告書 非売品)
- 田尾雅夫・若林直樹(編)『組織調査ガイドブック：調査党宣言』(325p. 有斐閣 2800円)
- 寺田篤弘『人生に観客席はありません』(245p. 人間の科学新社 1460円)
- 「神と聖書」編集委員会(編)(岩村義男・大田正紀・白井幸雄・長谷川潤・正田眞次・村田充八)『神戸と聖書：神戸・阪神間の450年の歩み』(253p. 神戸新聞総合出版センター 2000円)
- Thompson, Lee; Guttmann, Allen 'Japanese Sports: A History' 309p. University of Hawaii Press. US\$45.00
- 徳久球雄(編)・阿部裕美・山下兼代・清野かなえ・関 みどり・市川眞紀子・朝水宗彦・劉 明『国際化の地理学』(248p. 学文社 2000円)
- 徳久球男(編)・浅野清彦・東 徹・小濱 哲・山岡通太郎・劉 明・夫 起旭・平田雅子・朝水宗彦・城前奈美『環太平洋地域における国際観光』(239p. 嵯峨野書院 2200円)
- 徳久球雄・塚本圭一・朝水宗彦(編)『地域・観光・文化』(196p. 嵯峨野書院 1900円)
- 徳久球雄・安村克己(編)・宍戸 学・山口祐司・朝水宗彦・松本益弘・瀬沼克彰・塚本圭一・香川 眞・若槻博延・山下 隆『観光教育』(257p. くんぶる 2200円)
- 徳永 勇『ポスト産業社会：構造転換のダイナミックス』(178p. 勁草書房 2100円)
- 坪内玲子『継承の人口社会学：誰が「家」を継いだか』(256p. ミネルヴァ書房 4000円)
- Tsubouchi, Yoshihiro; Hawkes, Peter 'One Malay Village: A Thirty-Year Community Study' 297p. Kyoto: Kyoto University Press. 4800yen
- 鶴飼照喜(編)・関口鉄夫・宮原友治・赤羽貞幸・小林 詢・榊原保志・渡辺隆一・浅沼信治・白田 誠・横山孝子・広澤三和子(著)『上山田町新山地区環境影響調査報告書』(126p. 上山田町新山地区環境調査団 非売品)
- 梅澤 正『職業とキャリア』(212p. 学文社 2300円)
- 渡辺雅子『ブラジル日系新宗教の展開：異文化宣教の課題と実践』(563+xii p. 東信堂 8200円)
- 渡辺雅子『在日日系ブラジル人と地域住民の関係の実態とその形成・阻害要因に関する社会学的研究』(86p. 平成10～12年度科学研究費補助金基盤研究(c)(2)研究成果報告書 非売品)
- 矢島正見・耳塚寛明(編)・岩木秀夫・小杉礼子・大江淳良・堀 健志・松村幹子・堀 有喜衣・長須正明・前島賢士・丸 秀康・石田 仁・谷口洋幸『変わる若者と職業世界：トランジションの社会学』(201p. 学文社 2300円)
- 矢島正見『忠犬パパは眠れない』(221p. 宝島社 700円)
- 矢島正見(編)・原田 豊・加藤弘通・松宮 満・村松 励・千葉モト子・高橋 泉・竹村祥子・岡本吉生・河野員博・浅川達人・井出裕久・中尾唯治・石垣尚志『生活問題の社会学：新版』(227p. 学文社 2500円)
- 山田信行『日本におけるインフォーマル化の展開：下請制の形成と発展についての調査研究』(114p. 科学研究費補助金・基盤研究(c)(2)報告書 非売品)
- 山本剛郎『地域生活の社会学』(259p. 関西学院大学出版会 3200円)
- 山下袈裟男『在宅ケアの意味と成り立ち』(235p. みらい 2400円)
- 安田 雪『実践ネットワーク分析：関係を解く理論と技法』(188p. 新曜社)
- 安村克己『観光：新時代をつくる社会現象：社会学で読み解く』(vii+727p. 学文堂 2800円)
- 矢澤修次郎(編)『情報社会化に関する国際比較研究』(127p. 一橋大学大学院社会学研究科矢澤研究室 非売品)
- 横山知玄『現代組織と環境の組織化：組織行動の変容過程と「制度理論」のアプローチ』(318p. 文眞堂)
- 与那国 暹『戦後沖縄の社会変動と近代化：米軍支配と大衆運動のダイナミズム』(332p. 沖縄タイムス社 2600円)
- 吉原和男; クネヒト, ペトロ(編)『アジア移民のエスニシティと宗教』(386p. 風響社 5000円)

II. 翻訳の部〔日本語訳〕 (Translations into Japanese)

- ブースマン, デレク(鈴木富久・三宅俊夫訳)「グラムシの人間概念」(『グラムシ通信』 (43) p.50-53. 京都グラムシ研究会)
- キャレンバッハ, アーネスト(満田久義訳)『エコロジー事典：環境を読み解く』(197p. ミネルヴァ書房 2200円)
- クラマー, ジョン(橋本和孝・堀田泉・高橋英博・善本裕子訳)『都市と消費の社会学：現代都市・日本』(277p. ミネルヴァ書房 3800円)
- コーエン, ロビン(駒井 洋(監訳)・角谷多佳子訳)『グローバル・ディアスポラ』(362p. 明石書店 3800円)
- ドブソン, アンドリュウ(松野弘(監訳)・栗栖聡・池田寛二・丸山正次訳)『緑の政治思想：エコロジズムと社会変革の理論』(352p. ミネルヴァ書房 4000円)
- エーレンベルク, ジョン(吉田傑俊・有泉正二・天島一郎訳)『市民社会論：歴史的・批判的考察』(379p. 青木書店 4300円)

- フィュー、J-C.(編)(古川 敦訳)『デュルケムの教育論』(274p.行路社 3000円)
- ハマ、ジャンル;メイナード、メアリー(編)(堤かなめ(監訳))『ジェンダーと暴力: イギリスにおける社会学的研究』(346p.明石書店)
- 経済協力開発機構(阿部 敦・東海明子・中野克彦訳)『高齢化時代の経済と各国の政策』(121p.かもがわ出版 1500円)
- ケリング、ジョージ W.(船津 衛訳)「ゴフマン」(『20世紀思想家事典』 p.407-410誠信書房木田元・阿部美哉・伊東光晴・鈴木幸将・外林大作・陸路直 ……)
- ケリー、ウィリアム W.(白鳥義彦訳)「都会における場の発見: アイオロギー、制度、日常生活」(『歴史としての戦後日本(下)』 46 p.267-305. みすず書房ゴードンアンドルー(編)・中村政則(監訳))
- クライナー、ヨーゼフ(真鍋一史訳)「ドイツと日本における価値の変容: ヨーロッパ人の日本イメージ」(『関西学院大学社会学部紀要』 (90) p.9-24. 関西学院大学社会学部研究会)
- リーボウ、E.(吉川 徹訳)『タリーズコーナー: 黒人下層階級のエスノグラフィ』(215p.東信堂 2300円)
- シンガポール全国社会福祉サービス協議会家族サービス課(橋本和孝・速水聖子訳)「ボランティア福祉組織によるファミリーサービスセンター設立の指針」(『所報』 (24) p.160-180. 関西学院大学人文科学研究所)
- シルバークラット、アート(安田 尚(監訳)・小林淳一・小林弘昌・松岡 律訳)『メディア・リテラシーの方法』(333p.リベルタ出版 2800円)
- ヴェーバー、マックス(伊藤順啓訳)「Max Weberの「学問・政治」講演から定稿まで: 『全集』(I-17)学生版に付せられた「Anhang」の試訳」(『研究紀要』 (15) p.1-17. 静岡県立大学短期大学部)

III. 論文の部 (Articles)

1. 社会哲学・社会思想・社会学史 (Social Philosophy, Social Thought, History of Sociology)

- 赤坂真人「パレート行為理論再考(II): 残基と派生」(『吉備国際大学社会学部研究紀要』 11 p.127-136. 吉備国際大学社会学部)
- 浅野富美枝「ジェンダー論からみた『国民の道徳』の家族観」(浜林正夫・山科三郎(編)『徹底批判『国民の道徳』』 p.212-230. 大月書店)
- 千葉芳夫「揺れるヴェーバー」(『佛大社会学』 (25) p.20-40. 佛教大学社会学研究会)
- 藤澤三佳「ウィリアム・アイザック・トマスと『社会心理学の形成』」(中野正大(編)『シカゴ学派の総合的研究』 p.87-100. 平成10年度~12年度科研費補助金研究成果報告書)
- 船津 衛「アメリカ社会学の動向」(船津 衛(編)『アメリカ社会学の潮流』 p.1-19. 恒星社厚生閣)
- 原田 達「鶴見俊輔研究ノート(II)」(『桃山学院大学社会学論集』 35 p.53-82. 桃山学院大学総合研究所)
- 原田 達「鶴見和子のばあい: 鶴見俊輔試論(IV)」(『桃山学院大学社会学論集』 35 p.27-64. 桃山学院大学総合研究所)
- 狹本佳代「マルサスとスペンサー」(『マルサス学会年報』 (11) p.29-47. マルサス学会)
- 早川洋行「マルクスと貨幣論」(情況出版編集部(編)『社会学理論の〈可能性〉を読む』 p.28-42. 情況出版)
- 早川洋行「二つの美と社会学」(居安正・副田義也・岩崎信彦(編)『ゲオルク・ジンメルと社会学』 p.229-247. 世界思想社)
- 樋口辰雄「ヴェーバー社会学とニーチェ「ギリシア人の祭祀」」(『明星大学社会学研究紀要』 (21) p.1-36. 明星大学人文学部社会学科)
- 樋口辰雄「内田芳明『ヴェーバー 歴史の意味をめぐる闘争』」(『経済学史学会『年報』』 (40) p.86-87. 経済学史学会)
- 平林豊樹「マルセル・モースの人類学に於ける《全体的社会事実》」(『三田社会学』 (6) p.66-80. 三田社会学会)
- 平林豊樹「社会学的国家論の一方向」(『年報社会学論集』 (14) p.248-259. 関東社会学会)
- 廣井 脩・三上俊治・田中 淳・中村 功・中森広道・八木絵香・関谷直也「1999年JCO臨界事故と住民の対応」(『東京大学社会情報研究所調査研究紀要』 (15) p.237-406. 東京大学社会情報研究所)
- 廣井 脩・中森広道・中村 功・森岡千穂・松尾一郎「都市水害における住民心理と情報伝達」(『東京大学社会情報研究所調査研究紀要』 (16) p.1-93. 東京大学社会情報研究所)
- 井上 俊「『シスター・キャリアー』と初期のシカゴ学派」(『哲学研究』 (572) p.1-24. 京都哲学会)
- 犬飼裕一「自己言及と相互作用: ジンメルと鏡像の近代」(居安正・副田義也・岩崎信彦(編)『ゲオルク・ジンメルと社会学』 p.192-210. 世界思想社)
- 岩瀬民可子「『女性の権利の擁護』を読み直す」(江原由美子(編)『フェミニズムとリベラリズム』 p.69-106. 勁草書房)
- 和泉 浩「ヴェーバーとニーチェの音楽論」(『社会学年報』 (30) p.81-98. 東北社会学会)

- 鎌田大資「ルイス・ワースの『合資論』：シカゴ学派における社会的活動と社会計画」(中野正大(編)『シカゴ学派の総合的研究:平成10-12年度科学研究費補助金[基礎研究(B)(1)]報告書』p.167-185. 京都工芸繊維大学)
- 亀山佳明「他者の発見あるいは倫理の根拠：夏目漱石『道草』をめぐって」(『Becoming』9 BC出版)
- 金子雅彦「スタッフアーの実験的研究：1930年前後のシカゴ大学における量的調査法」(中野正大(編)『シカゴ学派の総合的研究(科学研究費補助金研究成果報告書)』p.199-208.)
- 鹿又伸夫「予言の自己成就モデル」(鹿又伸夫・野宮大志郎・長谷川計二(編)『質的比較分析』p.151-168. ミネルヴァ書房)
- 加藤眞義「可能態と形式の規定：マルクスの行為分析の展開のために」(『社会学研究』(68) p.1-22. 東北社会学研究会)
- 加藤眞義「資本の時間秩序と生命活動」(北村 寧・佐久間孝正・藤山嘉夫(編)『新世紀社会と人間の再生』p.64-78. 八朔社)
- 川合隆男「戦時下における雑誌『年報社会学』の軌跡」(『法学研究』74 p.1-36. 慶應義塾大学法学研究会)
- 兒玉幹夫「脱産業社会としての福祉社会」(『関東学院大学文学部紀要』(93) p.5-24. 関東学院大学人文学会)
- 小原一馬「気高さの社会学：シグナル理論から見たブルデューとヴェブレン」(『社会学評論』52(2) p.196-213. 日本社会学会)
- 駒井 洋「日本仏教と社会」(駒井 洋(編)『日本新生の構想』p.301-312. 筑波大学大学院社会科学研究所)
- 小松秀雄「ミシェル・フーコーのテクノロジー論(序論)」(『神戸女学院大学論集』48 p.163-184. 神戸女学院大学研究所)
- 松井克浩「ヴェーバーにおける「意味」と「諒解」：「理解社会学のカテゴリー」の問題構成」(『社会学史研究』(23) p.73-83. 日本社会学史学会)
- 三上剛史「公共性の理論と構造：ハバーマス、アレント、セネット」(『社会学雑誌』(18) p.68-91. 神戸大学社会学研究会)
- 三上剛史「複合社会の公共空間：正義、アイデンティティ、公共性」(『近代』(87) p.83-106. 神戸大学近代発行会)
- Mori, Mototaka. "Talcott Parsons and Theoretical Sociology in Japan" Nakano, Masataka. 'Jahrbuch fuer Soziologiegeschichte 1997/98, Sociology in Japan.' 8 Verlag Leske+Budrich.
- 村中知子「間主観性とコミュニケーション、ルーマンと現象学」(『茨城大学政経学会雑誌』(71) p.73-85. 茨城大学政経学会)
- 永田えり子「性的自己決定権」批判：リバータリアニズムVSフェミニズム」(江原由美子(編)『フェミニズムとリベラリズム』p.143-178. 勁草書房)
- 永谷 健「エッセイズム・アナロジー・アイロニー：ジンメルの語りと社会学」(居安正・副田義也・岩崎信彦(編)『ゲオルク・ジンメルと社会学』p.211-228. 世界思想社)
- 中村 功「2001年芸予地震における情報通信の問題点」(『松山大学論集』13 p.63-86. 松山大学)
- 中村 功「携帯メールの人間関係」(東京大学社会情報研究所(編)『日本人の情報行動2000』p.285-303. 東京大学出版会)
- 中村 功「携帯電話と変容するネットワーク」(川上善郎(編)『情報行動の社会心理学』p.76-87. 北大路書房)
- 中村 功「携帯電話の普及過程と社会的意味」(『現代のエスプリ』(405) p.46-57. 至文堂)
- 中村 功「通信メディア」(東京大学社会情報研究所(編)『日本人の情報行動2000』p.126-139. 東京大学出版会)
- 中西眞知子「ポストモダン社会と二十一世紀のマーケティング」(セルフフォースマネジメント研究会(編)『限りなき前進』p.130-141. 神谷書房)
- 直井美生子「G.H.ミード理論における相互行為と生成」(『現代社会理論研究』(10) p.97-107. 現代社会理論研究会)
- 直井美生子「相互性と現在のリアリティをめぐるとの問い：G.H.ミード「時間・空間」論の再検討」(『年報社会学論集』(14) p.187-199. 関東社会学会)
- 那須 壽「形式社会学の諸位相：ひとつの解説の試み」(居安正・副田義也・岩崎信彦(編)『ゲオルク・ジンメルと社会学』p.131-152. 世界思想社)
- 那須 壽「日常生活世界と科学の世界のあいだ：「適合的」な社会理論のために」(船津 衛(編)『アメリカ社会学の潮流』p.91-117. 恒星社厚生閣)
- 岡澤憲一郎「ジンメルの貨幣観：マルクス批判からウェーバーへ」(『ジンメル研究会会報』(6) p.19-26. ジンメル研究会)
- 岡澤憲一郎「ジンメルの宗教観：二一世紀における魂の救済」(居安正・副田義也・岩崎信彦(編)『21世紀への橋と扉:展開するジンメル社会学』p.239-257. 世界思想社)
- 澤井 敦「亡命者の社会学：マージナリティと社会学的想像力」(『社会学史研究』(23) p.25-37. 日本社会学史学会)
- 瀬地山 角「性的商品化とリベラリズム：内容批判から手続きへ」(江原由美子(編)『フェミニズムとリベ

- ラリズム】 p.107-142. 勁草書房)
- 白鳥義彦「デュルケームと道徳」(『相山女学園大学研究論集 社会科学篇』(32) p.151-159. 相山女学園大学)
- 菅 康弘「遊歩する都市とモデルネの桎梏：再びジンメルの都市へ」(居安正・副田義也・岩崎信彦(編) 『21世紀への橋と扉：展開するジンメル社会学』 p.173-195. 世界思想社)
- 鈴木健之「アメリカ社会学とパーソンズ」(『明の星女子短期大学紀要』 p.53-66. 明の星女子短期大学)
- 鈴木健之「パーソンズの生と死の社会学：「家族」論をめぐる」(『人文研究』(30) p.91-104. 千葉大学文学部)
- 鈴木富久「『実践の哲学』の人間論」(『グラムシ通信』(43) p.4-8. 京都グラムシ研究会)
- 鈴木富久「グラムシ「市民社会」とレーニン」(『季報唯物論研究』(77) p.30-37. 季報唯物論研究刊行会)
- 鈴木富久「グラムシ「人間とは何か」解析試論：『獄中ノート』における哲学的人間論の展開・その2(下：2)」(『桃山学院大学総合研究所紀要』27 p.95-107. 桃山学院大学総合研究所)
- 玉井眞理子「シカゴ学派の盛衰」(『大阪大学教育学年報』(6) p.53-62. 大阪大学)
- 徳田 剛「アメリカ社会学におけるジンメル受容」(居安正・副田義也・岩崎信彦(編)『ゲオルク・ジンメルと社会学』 p.85-106. 世界思想社)
- 宇城輝人「失業、社会学的対象の誕生」(『人文学報』(84) p.141-175. 京都大学人文科学研究所)
- 宇都宮京子「理性と現象学的社会学」(『東洋大学社会学研究所年報』(33) p.51-57.)
- 箭内 任「プロクルステスの賓客：ハーバーマスの「他者」理解を巡って」(『現代社会理論研究』(11) p.16-31. 現代社会理論研究会)

2. 一般理論 (General Theory)

- 阿部勘一「現代の《消費社会》における消費者行動把握のための視点」(『生活経済学研究』16 p.195-202. 生活経済学会)
- 阿部勘一「消費社会の中の「情報」：消費社会からみた情報資本主義の展開」(『社会情報学研究』(5) p.1-14. 日本社会情報学会)
- 福永英雄「私的結合による公的貢献の時代」(『比較文明』17 p.157-167. 比較文明学会)
- 巽岩 晶「M.ホルクハイマーの批判理論における理論概念について：理論的実践の社会的機能」(『社会学評論』52(2) p.180-195. 日本社会学会)
- 井上孝夫「国家の主意主義的理論」(『千葉大学教育学部研究紀要』49 p.31-45. 千葉大学教育学部)
- 伊藤 勇「シンボリック相互作用論における質的研究論争：ポストモダン派と相互作用論派の応酬」(船津衛(編)『アメリカ社会学の潮流』 p.64-81. 恒星社厚生閣)
- 川上周三「ヴェーバーの政治社会学と現代ナショナリズム論：グローバリゼーションの視圏からの一検討」(『専修大学人文科学年報』(31) p.69-103. 専修大学人文科学研究所)
- 丸山哲央・平田 毅「西欧社会学と文化理論の新しい動向」(『社会学部論集』(34) p.61-76. 佛教大学社会学部)
- 松本和良「信念体系とイデオロギーの概念」(『ソシオロジカ』25 p.1-21. 創価大学社会学会)
- 三重野 卓「システム志向と現実問題」(『社会・経済システム』(20) p.114-116. 社会・経済システム学会)
- 三隅一人「規範をめぐる合理的選択モデルの展開」(船津 衛(編)『アメリカ社会学の潮流』 p.281-303. 恒星社厚生閣)
- 西山俊彦「『構造的暴力理論』は「完全平等主義」と「絶対人格主義」との別名ではなからうか?：「個人レベルの関与」からの解放をも「ポジティブな関与」からの解放をも不可欠としていることに関連して」(『英知大学キリスト教文化研究所紀要』16 p.153-168. 英知大学キリスト教文化研究所)
- 小川賢治「国家主権と栄典制度;ドイツの栄典制度の変遷を例に」(『人間文化研究』(7) p.21-41. 京都学園大学人間文化学会)
- 澤井 敦「現代日本の死生観と社会構造(下)」(『人間関係学研究(人間関係学部紀要)』(2) p.235-251. 大妻女子大学)
- 柴野昌山「文化伝達と社会化：パーソンズからバーンステインへ」(柴野昌山(編)『文化伝達の社会学』 p.2-57. 世界思想社)
- 鈴木正仁「複雑系の社会学?：ウェーバリアンより見た「複雑系」科学」(今田高俊・鈴木正仁・黒石 晋(編)『複雑系を考える:自己組織性とはなにかII』 p.153-173. ミネルヴァ書房)
- 上谷香陽「性別に関わる諸現象の偶有性と秩序性」(『現代社会理論研究』(11) p.148-161. 現代社会理論研究会)
- 碓井 崧「パーソンズ・ルーマン・ハーバーマスの象徴的メディア論註解：社会システムにおける集権化と分権化(その4)」(『金沢大学文学部論集 行動科学・哲学篇』(21) p.27-43. 金沢大学文学部)
- 山田信行「パラダイムとしてのマルクス主義：ポストモダンの私見」(『帝京社会学』(13) p.87-109. 帝京大学文学部社会学科)
- 山田信行「社会理論の説明形式：「コンティンジェンシー」をいかに処理するか」(『関西学院大学社会学部紀要』(84) p.17-26. 関西学院大学社会学部)

- 山口 宏「個人化の両義性のなかでの自己と共同性」(『現代社会理論研究』(11) p.201-212. 現代社会理論研究会)
- 安田 尚「グローバリゼーションとフランス：ネオ・リベラリズム批判」(北村 寧・佐久間孝正・藤山嘉夫(編)・伊坂青司・山崎純・加藤真義・小林一穂・徳川直人・横井修一・高橋徹・中山伸樹(著)『新世紀社会と人間の再生』 p.173-192. 八朔社)

3. 社会変動論 (Social Change)

- 船津 衛「現代社会の特質」(安立清史・杉岡直人(編) 『社会学』 p.151-174. ミネルヴァ書房)
- 古田隆彦(曹 建南訳)「人口下降的日本将来如何発展」(『社会』 2001年7月号 p.36-38. 上海大学社会雑誌社)
- 橋爪大三郎; モハジェラニ.アタオラ「イスラム国家における改革とは?」(『世界』(684) p.182-187. 岩波書店)
- 平塚千尋・藤田 薫「高度情報化社会におけるメディア行動：1：2001年・富山県八尾町ケーブル調査から」(『放送研究と調査』 51(2001年8月号) p.62-89. 日本放送出版協会)
- 平塚千尋・藤田 薫「高度情報化社会におけるメディア行動：2：2001年・富山県八尾町インターネット利用者調査から」(『放送研究と調査』 51(2001年10月号) p.82-105. 日本放送出版協会)
- 細谷 昂「戦後農政に対する水稲作農民の対応と家,村の変容：山形県庄内地方の事例」(『年報村落社会研究』第37集 日本農業・農村の史的展開と農政—第二次大戦後を中心に』 第37集 p.77-107. 日本村落研究学会)
- 岩城完之「資本主義の発展と現代社会の構造的変容に関する問題」(『関東学院大学文学部紀要』(93) p.25-47. 関東学院大学人文学会)
- 松宮 朝「「内発的発展」概念をめぐる諸問題：内発的発展論に向けての試論」(『社会福祉研究』 3 p.45-54. 愛知県立大学文学部社会福祉学科)
- 宮本孝二「ポストモダニティの社会理論：批判的検討」(『桃山学院大学社会学論集』 35 p.1-25. 桃山学院大学総合研究所)
- 村中知子「個別経営と協同経営のはざままで,旧東ドイツのLPG解体のゆくえ」(『茨城大学人文学部紀要社会学論集』(34) p.1-18. 茨城大学人文学部)
- 西野理子「炭鉱再就職者のその後：リストラ後の職業キャリアの再構築過程に関する一考察」(『社会学年誌』(42) p.41-52. 早稲田社会学会)
- 山田信行「FTZ問題と沖繩：「中核性」と「周辺性」との相剋」(『帝京社会学』(14) p.133-157. 帝京大学文学部社会学科)
- 山田信行「「ポスト新国際分業」とジャパナイゼーション：国際分業の転換と労使関係のグローバルな編成」(『日本労働社会学会年報』(10) p.11-31. 日本労働社会学会)
- 山田信行「グローバリゼーションと「国民国家」：労使関係は収斂するか」(『社会学評論』 52(2) p.300-315. 日本社会学会)
- 山田信行「グローバリゼーションと日本的システム」(『社会政策学会誌』(4) p.27-35. 社会政策学会)
- 山田信行「周辺社会における工業化と技能形成：「ポスト新国際分業」の可能性」(『ソシオロジ』 43 p.71-86. 社会学研究会)
- 山田信行「世界システムにおける成層と移動：半周辺と「グローバルな商品連鎖」」(庄司興吉(編) 『世界社会と社会運動』 p.37-59. 梓出版社)

4. 社会集団・組織論 (Social Group, Organization)

- 藤本昌代「地域情報化と地域アイデンティティ」(地方自治研究会(編) 『『地域社会の政治構造と政治文化の総合研究 第1輯』文部省科学技術研究費成果報告書』)
- 船津 衛「集団と組織」(倉沢進・秋元律郎・岩永雅也(編) 『新訂社会学入門』 p.52-61. 放送大学教育振興会)
- Kobayashi, Jun. "Unanimous Opinions in Social Influence Networks" Nakano, Masataka. 'Journal of Mathematical Sociology.' (16) p.285-297.
- 松本和良「アイヌ民族とエスニシティの問題」(松本和良・江川直子(編) 『アイヌ民族とエスニシティの社会学』 p.1-15. 学文社)
- 松本和良「アイヌ民族社会における歴史的変化」(松本和良・江川直子(編) 『アイヌ民族とエスニシティの社会学』 p.18-52. 学文社)
- 宮垣 元「社会関係とコミュニティ：テーマ・コミュニティ醸成へ向けて」(加藤寛(監修)『ライフデザイン白書2002-03』 p.34-51. ライフデザイン研究所(発行);矢野恒太記念会(発売))
- 宮垣 元「情報とオープン・コミュニティ」(『兵庫県長寿社会研究機構研究年報』 6 p.9-17. 兵庫県長寿社会研究機構)

- 宮垣 元「制度転換期における福祉NPOの動向と課題」(中村陽一・日本NPOセンター(編)『日本のNPO/2001』 p.49-57. 日本評論社)
- 宮垣 元「民間非営利組織(NPO)における情報共有構造の実態：在宅介護サービスNPOの信頼メカニズムに関する事例研究」(『経済社会学会年報』(23) p.111-120. 経済社会学会)
- Miyagaki, Gen; Fukazawa, Kaori. "Organizational Characteristics of Voluntary Associations in" Starrs, Roy. 'International Journal of Japanese Sociology.' 10 p.56-68. Japan Sociological Society.
- 奥山敏雄「20世紀組織理論の欠陥とポスト官僚制の意味」(『社会学ジャーナル』(26) p.53-78. 筑波大学社会学研究室)
- 首藤明和「現代中国村落の諸類型：生活組織としての村落の成立基盤を焦点に」(『社会学雑誌』(18) p.173-188. 神戸大学社会学研究会)
- 玉井眞理子「クリフォード・ショウの非行研究」(中野正大(編)『シカゴ学派的総合的研究』)
- Valls Campa, Lluís. "Collective Decision-Making in Economic Governance Approaches: "Forum" as New Organizational Form" Nakano, Masataka. 'Ritsumeikan Social Science Review.' 37(2) p.89-113.
- 若林直樹「組織間ネットワークにおける埋め込みと信頼のマネジメント」(『社会学年報』30 p.219-238. 東北社会学会)
- 安田 雪「マネージャーのネットワーク分析」(田尾雅夫・若林直樹(編)『組織調査ガイドブック』 p.201-211. 有斐閣)

5. 階級・階層・社会移動 (Class, Stratification, Social Mobility)

- 青木秀男「都市貧困層の変容：労働, 居住, 政治」(中西徹・小玉徹・新津晃一(編)『アジアの大都市〔4〕マニラ』 p.93-115. 日本評論社)
- 浜田 宏「経済的地位の自己評価と準拠集団： δ 区間モデルによる定式化」(『社会学評論』52(2) p.283-299. 日本社会学会)
- 林 拓也「地位達成アスピレーションに関する一考察：先行研究の検討とキャリア・アスピレーション研究の展望」(『人文学報』(318) p.45-70. 東京都立大学)
- 石田光規「準拠枠としてのネットワーク：階層帰属意識への影響」(『社会学研究科年報』(8) p.45-53. 立教大学大学院)
- 上久保達夫「都市生活経験者の山の仕事とムラの生活：岐阜県内における林業労働への大卒新規参入者の場合」(『皇學館大学文学部紀要』第40輯 p.1-28. 皇學館大学文学部)
- 片岡栄美「教育達成過程における家族の教育戦略：文化資本効果と学校教育投資効果のジェンダー差を中心に」(『教育学研究』68 p.1-15. 日本教育学会)
- 吉川 徹「ジェンダー意識の男女差とライフコース・イメージ」(尾嶋史章(編)『現代高校生の計量社会学』 p.107-126. ミネルヴァ書房)
- 村上あかね「90年代における既婚女性の就業と収入格差」(『ソシオロジ』46(2) p.37-55. 社会学研究会)
- 村尾祐美子「労働市場における地位達成とジェンダー：男性雇用の役職獲得に関するイベント・ヒストリー分析」(『人間文化論叢』3 p.77-86. お茶の水女子大学大学院人間文化研究科)
- 丹辺宣彦・田淵六郎「〈書評論文〉 盛山和夫・原純輔・今田高俊・海野道郎・高坂健次・近藤博之・白倉幸男編『日本の階層システム』全6巻」(『社会学評論』52(3) p.430-436. 日本社会学会)
- 奥山真知「イスラエル/パレスチナにおける社会的ヒエラキーの動向」(『人間科学』18 p.15-30. 常磐大学人間科学部)
- 小内 透「ジェンダー・エスニシティの視点からみた階級構造」(笹谷春美・小内 透・吉崎祥司(編)『階級・ジェンダー・エスニシティ:21世紀の社会学の視角』 p.109-129. 中央法規出版)
- 小内 透「階級・ジェンダー・エスニシティと社会的不平等」(笹谷春美・小内 透・吉崎祥司(編)『階級・ジェンダー・エスニシティ:21世紀の社会学の視角』 p.9-31. 中央法規出版)
- 小内 透「階級・階層構造の社会的再生産と正当化」(『北海道大学大学院教育学研究科紀要』(84) p.107-126. 北海道大学大学院教育学研究科)
- 小内 透「日本社会の発展と再生産様式の変容」(『現代社会学研究』(14) p.115-134. 北海道社会学会)
- 笹谷春美「階級・ジェンダー・エスニシティ再考」(笹谷春美・小内 透・吉崎祥司(編)・杉橋やよい・小内順子・中道仁美・古田睦美・徳川直人・都築くるみ(著)『階級・ジェンダー・エスニシティ:21世紀の社会学の視角』 p.32-58. 中央法規出版)
- 菅 康弘「Iターン定住：〈住〉から〈旅住〉へ」(『農業と経済』2001年6月号) 67 p.68-73. 富民協会)
- 菅 康弘「旅の途中：〈移り〉〈住む〉ことの今日」(『甲南大学紀要』文学編) (117) p.139-166. 甲南大学)
- 牛島千尋「戦間期の東京における新中間層と「女中」：もう一つの郊外化」(『社会学評論』52(2) p.266-282. 日本社会学会)
- 薬師院仁志「学歴社会と選抜：メリトクラシーと差異化」(柴野昌山(編)『文化伝達の社会学』 p.220-242.

6. 家 族 (Family)

- 安達正嗣「高齢期における家族再構築：家族社会学の視点の再検討」(『家族関係学』(20) 日本家政学会家族関係部会)
- 青井和夫「比較制度論的アプローチ」(野々山久也・清水治昭(編)『家族社会学の分析視角』 p.25-46. ミネルヴァ書房)
- 鮎川 潤「構築主義的アプローチ」(野々山久也・清水浩昭(編)『家族社会学の分析視角』 p.344-364. ミネルヴァ書房)
- 藤井廣美「心身の健康意識度の現状とその要因」(清水新二(編)『現代日本の家族意識』 p.23-46. 日本家族社会学会全国家族調査(NFR)研究会)
- 藤本信子「職業と家族生活の両立方法(1)」(『金蘭短期大学研究誌』(32) p.1-14. 金蘭短期大学)
- 藤本 亮「戦後の社会意識の変容：横溝正史ブームを手がかりに」(『社会学論叢』(140) p.1-20. 日本大学社会学会)
- 原 俊彦「ドイツにおける無子の広がりとその背景」(『人口問題研究』56 p.70-87. 国立社会保障・人口問題研究所)
- 原 俊彦「ドイツの家族政策の特徴と受容」(『現代社会学研究』(14) p.73-96. 北海道社会学会)
- 原 俊彦「ドイツの出生動向と家族政策」(『北海道東海大学紀要人文社会科学系』(13) p.149-175. 北海道東海大学)
- 原 俊彦「旧西ドイツ地域における同棲の広がりとその要因」(『家族社会学研究』13(1) p.87-97. 日本家族社会学会)
- 平賀明子・三谷鉄夫「高齢者の子どもの性別による居住分布とインフォーマル・ネットワーク構造との関連」(『高齢者問題研究』17 p.141-152. 財団法人北海道高齢者問題研究協会)
- 保坂恵美子「家族・地域・福祉」(木下謙治・小川全夫(編)・鈴木 広(監修)『家族・福祉社会学の現在』 p.31-46. ミネルヴァ書房)
- 保坂恵美子「高齢者介護におけるジェンダー構造」(『文部省科学研究費基礎研究(A):10301010:家族生活についての全国調査(NFR98)報告書2-6』(37) p.79-105. 日本家族社会学会・全国家族調査(NFR)研究会)
- 稲妻昭英「夫婦間サポートのパターンと発達的变化」(岩井紀子(編)『現代日本の夫婦関係』 p.59-70. 日本家族社会学会全国家族調査研究会)
- 井上治代「産業化による人口移動と墓祭祀の変容：鹿児島県大浦町調査より」(『宗教と社会』(7) p.47-70. 『宗教と社会』学会)
- 井上清美「家族内部における孤独感と個人化傾向:中年期夫婦に対する調査データから」(『家族社会学研究』12(2) p.237-246. 日本家族社会学会)
- 神原文子「〈教育する家族〉の家族問題」(『家族社会学研究』12(2) p.197-207. 日本家族社会学会)
- 春日井典子・片岡佳美「家族ライフスタイル論的アプローチ」(野々山久也・清水浩昭(編)『家族社会学の分析視角:社会学的アプローチの応用と課題』 p.303-323. ミネルヴァ書房)
- 片岡佳美「男女共同参画社会における家族」(『研究年報』6 p.69-78. (財)兵庫県長寿社会研究機構)
- 加藤彰彦「初婚タイミングに対する社会経済的地位の効果」(加藤彰彦(編)『家族形成のダイナミクス』 p.43-79. 日本家族社会学会全国家族調査研究会)
- 加藤彰彦「未婚化・社会階層・経済成長」(『家族社会学研究』13 p.47-58. 日本家族社会学会)
- 木下謙治「家族のゆくえ」(『筑紫女学園大学紀要』(13) p.323-342.)
- 小松楠緒子「子供はみんなで育てるもの：ファミリー・サポート・センターの取り組み」(『公共哲学ニュース』(12) p.7-7. 将来世代国際財団)
- Kumagai,Fumie. "Japanese education in the Information Age Society" Nakano.Masataka. 'Annual Review of the Faculty of Foreign Languages of Kyorin University.' (13) p.1-27. Department of Foreign Studies of Kyorin University.
- Kumagai,Fumie. "Possibilities for Using the Internet in Japanese Education in the Information Age Society" Starrs,Roy. 'International Journal of Japanese Sociology.' 10 p.29-44. Japan Sociological Society.
- 松田茂樹「インフォーマル・ネットワークとwell-being：育児におけるネットワークのサポート効果」(『LDI REPORT』2001-7・8巻 p.4-21. ライフデザイン研究所)
- 松田茂樹「育児ネットワークの構造と母親のWell-Being」(『社会学評論』52(1) p.33-49. 日本社会学会)
- 松田茂樹「性別役割分業と新・性別役割分業：仕事と家事の二重負担」(『哲学』106 p.31-57. 慶應義塾大学三田哲学会)
- 松田茂樹「夫婦の家事・育児分担の規定要因」(岩井紀子(編)『現代日本の夫婦関係』 p.167-184. 日本家族社会学会)
- 松成 恵「高齢に伴う親子同居のタイミング：独居後期高齢者事例研究」(『山口県立大学生生活科学部研究報告』27 p.19-30. 山口県立大学院生活科学部)

- 森岡清美「『家族発達』概念の確立」(『淑徳大学大学院研究紀要』(8) p.249-254. 淑徳大学大学院)
- 村上あかね「結婚・子供・家族をめぐる規範構造の分析：有配偶男女を対象に」(川端 亮・田中重人(編)『吹田市民のコミュニティ・ネットワークに関する調査報告書』 p.90-111. 大阪大学大学院人間科学研究科社会環境学講座先進経験社会学研究分野)
- 中里英樹「高齢者による子との居住関係の選択とその規定要因：同居・隣居・近居・遠居をめぐる」(清水新二(編)『現代日本の家族意識(文部省科学研究費基盤研究(A)家族生活についての全国調査(NFR98)報告書No.2-4)』 p.121-139. 日本家族社会学会・全国家族調査(NFR)研究会)
- 中里英樹「中山間地域における高齢者の家族・近隣ネットワークと介護期待：三重県大宮町の事例から」(『松阪大学地域社会研究所報』(13) p.77-86. 松阪大学地域社会研究所)
- 中里英樹「歴史社会的アプローチ」(野々山久也・清水浩昭(編)『家族社会学の分析視角：一社会学的アプローチの応用と課題一』 p.64-81. ミネルヴァ書房)
- 西野理子「データ・アーカイブの視点からみたNFR98」(『家族社会学研究』13 p.35-45.)
- 西野理子「家族認知の条件：最年長のきょうだいへの認知の分析」(『家族社会学研究』13 p.61-71. 日本家族社会学会)
- 野々山久也「家族ライフスタイルの重層化に関する仮説構築」(『甲南大学文学部紀要文学編(社会科学特集)』(117) p.62-83. 甲南大学文学部)
- 野々山久也「相互作用論的アプローチ」(野々山久也・清水浩昭(編)『家族社会学の分析視角：一社会学的アプローチの応用と課題一』 p.241-263. ミネルヴァ書房)
- 野沢慎司「ネットワーク論的アプローチ：家族社会学のパラダイム転換再考」(野々山久也・清水浩昭(編)『家族社会学の分析視角：社会学的アプローチの応用と課題』 p.281-302. ミネルヴァ書房)
- 野沢慎司「家族と社会」(倉沢進・秋元律郎・岩永雅也(編)『新訂社会学入門』 p.92-108. 放送大学教育振興会)
- 野沢慎司「核家族の連帯性とパーソナル・ネットワーク：夫婦・親子間紐帯の構造分析」(『季刊家計経済研究』(49) p.25-35. (財)家計経済研究所)
- Ochiai,Emiko. "Myth and Reality of Asian Traditional Families:Living Arrangement of the Elderly in Tokugawa Japan" Nakano,Masataka. 'APC Journal of Asian-Pacific Studies.' (9) p.7-21. Asian-Pacific Center.
- 落合恵美子「アジア伝統家族の神話と現実：徳川日本における高齢者の居住形態」(『APCアジア太平洋研究』(9) p.5-16. 財団法人アジア太平洋センター)
- 笹谷春美・王 海燕「家族介護と施設介護の連携に関する研究：特養・老健における施設長および介護職員調査」(『北海道高齢者問題研究』(17) p.87-105. 北海道高齢者問題研究協会)
- 清山洋子「現代の家族と社会福祉」(木下謙治・小川全夫(編)・鈴木 広(監修)『家族・福祉社会学の現在』 p.47-69. ミネルヴァ書房)
- 清水新二「家族と共依存」(清水新二(編)『共依存とアディクション：心理・家族・社会』 p.16-57. 培風館)
- 清水新二「共依存物語と臨床的援助活動」(清水新二(編)『共依存とアディクション：心理・家族・社会』 p.58-84. 培風館)
- 清水新二「私事化のパラドクス：「家族の個人化」「家族の個別化」「脱私事化」論議」(『家族社会学研究』13 p.97-104. 日本家族社会学会)
- Shimizu,Shinji; Sekii,Tomoko. "Drinking and Masculinity in Japan" Nakano,Masataka. 'Journal of Mental Health.' 47 p.55-63. National Institute of Mental Health;NCNP.
- 住田正樹・溝田めぐみ「母親の育児不安と育児サークル」(『九州大学大学院教育学研究紀要』46 p.23-40. 九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門)
- 高橋博子「『高齢者の加齢と家族形態の変化』：男性と女性の違い・地域による違い」(山中永之佑・竹安栄子・曾根ひろこ・白石玲子(編)『介護と家族』 p.203-225. 早稲田出版)
- 竹下修子「国際結婚における異文化適応：ヨーロッパに居住する日本人妻の場合」(『愛知学院大学教養部紀要』49 p.53-61. 愛知学院大学教養部)
- 竹下修子「台湾における日本人妻の社会的ネットワーク：国際結婚による移住のためのネットワーク変容の視点から」(『愛知学院大学教養部紀要』49 p.87-99. 愛知学院大学教養部)
- 竹下修子「日本人妻のイスラムへの適応：外国人ムスリムを夫にもつ妻の事例分析から」(『愛知学院大学教養部紀要』48 p.157-172. 愛知学院大学教養部)
- 立山徳子「都市度・親族ネットワークと家族意識・夫婦関係：「下位文化理論」による検証」(岩井紀子・日本家族社会学会全国家族調査(NFR)研究会(編)『現代日本の夫婦関係』 p.17-32. 文部省科学研究費基盤研究報告書)
- 立山徳子「有配偶女性のパーソナル・ネットワークと家族意識：下位文化理論による都市度効果の検討」(石原邦雄(編)『公開個票データの活用による家族の国際比較の試み：一「全国家族動向調査」(日本)と「NSFH」(米国)一』 p.52-65. H8~10年度文部省科学研究費研究報告書)
- 坪井 健「高齢化と高齢者の生き方：高齢者の生き方支援の研究」(日本人と高齢化. 'Essays Medical Problems in Japan.' p.177-200. 人間の科学社)
- 坪内玲子「近世武士における家系継承：系譜資料の社会人口学的分析」(『龍谷紀要』22 龍谷大学龍谷紀要編集会)

- 土屋 葉「介助における家族関係：障害をもつ人と母親への聞きとりから」(『バイオメカニズム学会誌』 25 p.113-117. バイオメカニズム学会)
- 轟 理恵子「年寄りのアイデンティティに関する語り」(『女性と経験』(26) p.166-176. 女性民俗学研究会)
- Tsutsumi,Masae. "Succession of Stem Families in Rural Japan: Cases in Yamanashi" Starrs,Roy. 'International Journal of Japanese Sociology.' 10 p.69-79. Japan Sociological Society.
- 渡辺めぐみ「農村における「配偶者問題」研究の批判的検討」(『家族研究年報』(26) p.31-41. 家族問題研究会)
- 大和礼子「なぜ女性は“多様な”介護ネットワークを持つのか? : 介護ネットワークの年齢差・階層差が大きい女性と小さい男性」(石原邦雄・大久保孝治(編) 『『家族生活についての全国調査(NFR98)報告書 NO.2-6 現代家族におけるサポート関係と高齢者介護』1998-2000年度科学研究費補助金研究成果報告書』 p.53-78. 日本家族社会学会・全国家族調査(NFR)研究会)
- 大和礼子「夫の家事参加は妻の結婚満足感を高めるか? : 妻の世帯収入貢献度による比較」(『ソシオロジ』 46(1) p.3-20. 社会学研究会)
- 矢野裕子・施 文欣・服部範子「中国と日本における家庭教育の比較研究」(『家族関係学』(20) p.133-144. 日本家政学会家族関係学部会)

7. 農漁山村・地域社会 (Rural/Fishing/Mountain Village, Community)

- 油川 洋「IT革命と地域情報化：米沢地域のテレピア構想をめぐって」(『山形県の社会経済・2001年』 年報第14号 p.52-65. 社団法人山形県経済社会研究所)
- 油川 洋「地方財政と第三セクターの実態」(『東北経済学会誌2000年度版』(10) p.1-8. 東北経済学会)
- 油川 洋「地方財政と第三セクターの相関性」(『尚綱女学院短期大学研究報告』 第48集 p.77-88. 尚綱女学院短期大学)
- 鯉坂 学「21世紀のコミュニティーを探る：地域住民組織・集団の展望」(『TOMORROW』 15 p.40-46. あまがさき未来協会)
- 鯉坂 学・湯浅俊郎・星 真理子・吉原千賀・杉本久未子「都市：農村関係と都市移住者」(『同志社社会学研究』(5) p.1-68.)
- 遠藤英樹「観光という「イメージの織物」：奈良を事例とした考察」(『社会学評論』 52(1) p.133-146. 日本社会学会)
- 古田隆彦「地方行政にもマーケティングマインドを！」(『宣伝会議』 2001年11月号 p.22-25. 宣伝会議)
- 橋本和孝「シンガポールにおけるコミュニティセンター運動：プキ・バトック・コミュニテイクラブのケース」(『日本都市学会年報』 34 p.213-220. 日本都市学会)
- 市田(岩田)知子「ドイツにおける農業環境政策の展開：「アジェンダ2000」以降の動きを中心に」(合田素行(編)『中山間地域等への直接支払いと環境保全』 p.61-112. 家の光協会)
- 市田(岩田)知子「戦後改革期と農村女性：山口県における生活改善普及事業の展開を手懸かりに」(『村落社会学研究』 8 p.24-35. 日本村落研究学会)
- 伊藤 勇「インタビューの限界と可能性：庄内調査の方法的反省」(『社会学年報』(30) p.19-37. 東北社会学会)
- 岩間 剛「スリランカ高地の農業労働」(『玉川大学文学部紀要』 41 p.1-13. 玉川大学文学部)
- 河原晶子「地域社会の多様性の喪失と再生」(飯田哲也・中川順子・浜岡政好(編) 『新・人間性の危機と再生』 p.145-165. 法律文化社)
- 小林一穂「農家から家族を考える」(北村 寧・佐久間孝正・藤山嘉夫(編) 『新世紀社会と人間の再生』 p.100-115. 八朔社)
- 小松田儀貞「中山間地域自治体における保健・医療・福祉システム地域的総合化の展開：岩手県藤沢町の事例を中心に」(『富士大学紀要』 33 p.123-132. 富士大学学術研究会)
- 近藤 論「鹿児島焼酎醸造業の現状：始良・隼人地区の聞き取り調査から見えてきたもの」(『研究紀要』 22 p.107-131. 志学館大学文学部)
- 黒田英一「21世紀の地域経営：もうひとつの市場によるもうひとつの地域起こし」(『週刊エコノミスト』(2001.1.16) p.94-97. 毎日新聞社)
- 黒田慶子「地域通貨が結ぶ新しいコミュニティの性格について：多摩ニュータウン・COMO倶楽部の人々」(『社会文化研究』(4) p.88-104. 社会文化学会)
- 黒田慶子「地域通貨の可能性：COMO実証実験第1次調査を中心に」(『多摩ニュータウン研究』(3) p.45-61. 中央大学出版部;多摩ニュータウン学会)
- 町村敬志「開発の歴史社会学序説：佐久間ダム建設を事例として」(金子 勇・森岡清志(編) 『都市化とコミュニティの社会学』 p.253-270. ミネルヴァ書房)
- 町村敬志「戦後日本における開発主義イデオロギーの形成と展開」(『総合研究プロジェクト・ディスカッションペーパー』(7) p.1-24. 一橋大学大学院社会学研究科)
- 牧野修也「農民学習運動組織の成立と展開：庄内労農大学の事例から」(『村落社会学研究』(15) p.36-46. 日本村落研究学会)

- 松本和良「『会報』より見た東北都市学会の回顧」(『東北都市学会研究年報』3 p.44-59. 東北都市学会)
- 三上俊治・是永 論・中村 功・見城武秀・森 康俊・柳澤花芽・森 康子・関谷直也「携帯電話・PHSの利用実態2000」(『東京大学社会情報研究所調査研究紀要』(15) p.145-236. 東京大学社会情報研究所)
- 茂木 豊「地方小都市における住居移動とその関連要因」(『福岡県立大学紀要』9 p.39-53. 福岡県立大学)
- 中道 實「地方議員への経路(I)」(『人間文化研究科年報』(16) p.145-158. 奈良女子大学大学院人間文化研究科)
- 中筋直哉「地域社会学における地方自治体研究の現代的課題」(『社会志林』47 p.61-74. 法政大学社会学部学会)
- 中田 実「地域社会とNPO」(『コミュニティ政策研究』(3) p.5-13. 愛知学泉大学コミュニティ政策研究所)
- 小川全夫「過疎・山村地域振興」(『農』20 p.42-44. ぎょうせい)
- 小川全夫「離島の半島化は発展か：地域人口高齢化への取り組み」(『地理科学』55 p.169-175. 地理科学学会)
- 小内 透「群馬県の地域社会形成と産業的特質」(『調査と社会分析』(4) p.127-148. 札幌学院大学人文学部社会調査室)
- 小内 透「現代日本の地域的不均等発展と地域社会類型」(『調査と社会分析』(4) p.12-50. 札幌学院大学人文学部社会調査室)
- 立川雅司「アメリカにおける(Non-)GM農産物の生産と流通の実態」(『農業と経済』67 p.13-20. 富民協会)
- 立川雅司「環境保全型農業の拡大と“有機”農産物のフードシステム」(土井時久・斎藤修(編)『フードシステムの構造変化と農漁業』p.282-299. 農林統計協会)
- 高橋英博「フィールドと理論枠との間にあるもの：〈場所の個性〉と「構造分析」」(『社会学年報』(30) p.39-59. 東北社会学会)
- 徳川直人「低投入型放牧酪農の経営と暮らし(9)：マイペース酪農交流会の意味世界とその特質」(『畜産の研究』55 p.556-560. 養賢堂)
- 徳川直人・相沢 出・劉 章旗「庄内地方における営農志向の現況と農村社会：酒田市生産組合長に対する第三次「営農志向調査」から」(『社会学研究』(69) p.181-210. 東北社会学研究会)
- 戸島信一「九州における産業空洞化と農村の就業構造」(『農業問題研究』(48) p.23-34. 農業問題研究学会;筑波書房)
- 戸島信一「山村地域社会の変貌と伝統文化継承：宮崎県椎葉村を事例に」(『社会分析』(28) p.119-134. 日本社会分析学会)
- 戸谷 修「沖縄南部近郊地域における人口・家族構造とその変化：東風平町を事例として」(『椋山女学園大学研究論集』32 p.11-50. 椋山女学園大学)
- Tsushima.Michihito. "Introduction to the Two Articles on Contemporary Religion" Starrs.Roy. 'International Journal of Japanese Sociology.' 10 p.2-4. Japan Sociological Society.
- 渡戸一郎「ローカルガバナンスとVNPO」(『月刊自治研』43 p.43-49. 自治研中央推進委員会)
- 吉沢四郎「上流山村のむらづくり「吉野川源流物語」の展開：奈良県吉野郡川上村の村づくりと林業労働」(『村落社会研究』8 p.1-11. 農山漁村文化協会;日本村落研究学会)

8. 都 市 (Urban Society)

- 安達正嗣「『高齢期家族』とニュータウン：家族と住まいの再構築」(『都市住宅学』(34) p.23-26. 都市住宅学会)
- 安達正嗣「大都市における高齢者の家族・親族コミュニケーションに関する調査研究・序報：愛知県春日井市・高蔵寺ニュータウンにおける高齢夫婦への面接調査を中心に」(『名古屋市立大学人文社会部研究紀要』(10) p.95-106. 名古屋市立大学人文社会部)
- 橋本和孝「住民運動と都市社会運動の間」(地域社会学会(編)『市民と地域—自己決定・協働.その主体:地域社会学会年報第13集』p.205-209. ハーベスト社)
- 平松道夫「情報バリアフリーとしてのサイン環境：高齢社会における都市生活環境」(『富山福祉短期大学紀要福祉研究論集』(2) p.91-96. 富山福祉短期大学)
- 細野助博・矢部拓也「多摩センター地区活性化に寄せる世代間格差：多摩そごう閉鎖ニュースを契機として行った緊急アンケート結果報告」(『多摩ニュータウン研究』(3) p.13-28. 多摩ニュータウン学会)
- 駒井 洋「カンボジア社会の現状：雇用を取り巻く条件」(雇用・能力開発機構(編)『アジア諸国の職業安定制度と雇用政策に関する調査研究報告書:カンボジア王国』(財)アジア人口・開発協会)
- 前田弘夫「なぜ今統合機関か」(『関東都市学会年報』3 関東都市学会)
- 三隅一人「都市社会学的『郊外』研究のために」(『日本都市社会学会年報』19 p.3-21. 日本都市社会学会)
- 三浦典子「企業組織とコミュニティ」(金子 勇・森岡清志(編)『都市化とコミュニティの社会学』p.210-228. ミネルヴァ書房)
- 森岡清志「拡大パーソナルネットワーク分析の方法と意義」(金子 勇・森岡清志(編)『都市化とコミュニティの社会学』p.150-169. ミネルヴァ書房)
- 根橋正一「台湾における都市形成の過程と特徴」(『流通経済大学社会学部論叢』11 p.51-76. 流通経済大

学出版会)

- Okuda, Michihiro. "Asian Newcomers in Shinjuku and Ikebukuro Areas, 1988-1998: Reflections on a Decade of Research" Nakano, Masataka. 'Asian and Pacific Migration Journal.' (26) Scalabini Migration Center.
- 奥田道大「21世紀システムとしての都市コミュニティの様相：都市社会学断章」(『都市住宅学』(34) p.53-64. 都市住宅学会)
- 奥田道大「[「サバーバニズム」再考の現実的契機：フィラデルフィア大都市圏の2つの事例から」(『日本都市社会学会年報』(19) p.87-105. 日本都市社会学会)
- Tajima, Junko. "A Study of Asia Immigrants in Global City Tokyo" Nakano, Masataka. 'Asian Pacific Migration Journal.' (6) p.349-364. Scarabini Migration Center.
- 高橋正樹「書評論文 調査と理論とのあいだ：名和田彦『コミュニティの法理論』を読む」(『関連社会学』(10) p.125-127. 関連社会学編集委員会(東京大学大学院総合文化研究科国際社会学専攻))
- 高橋勇悦「書評論文」奥田道大編『講座社会学4 都市』(『社会学評論』51(4) p.464-468. 日本社会学会)
- 谷 富夫「都市の民族関係に関する中範囲の理論化」(金子 勇・森岡清志(編)『都市化とコミュニティの社会学』 p.272-288. ミネルヴァ書房)
- 若林幹夫「現代都市の境界線：包装(ラップ)される都市と身体」(『10+1(テン・プラス・ワン)』(25))
- 若林幹夫「郊外論の地平」(『日本都市社会学会年報』(19) p.39-54.)
- 矢部拓也「地方小都市の再生過程：滋賀県長浜市第3セクター『黒壁』を事例として」(『法政大学多摩地域社会研究センター研究年報』5 p.57-81. 法政大学多摩地域社会研究センター)
- 山口恵子「現代社会における都市雑業の展開：新宿、隅田川周辺地域の事例より」(『広島修道大論集』42 p.129-152. 広島修道大学人文学会)
- 安河内恵子「都市化社会における女性の就業と社会ネットワーク」(金子 勇・森岡清志(編)『都市化とコミュニティの社会学』 p.192-208. ミネルヴァ書房)
- 吉原直樹「都市とガヴァナンス」(金子 勇・森岡清志(編)『都市化とコミュニティの社会学』 p.18-31. ミネルヴァ書房)

9. 生活構造 (Life Structure)

- 三重野 卓「共生システムと「生活の質」」(『経済社会学会年報』(23) p.68-70. 経済社会学会)
- 野辺政雄「高梁市の市街地に住む高齢女性の暮らし(その1)」(『岡山大学教育学部研究集録』(116) p.43-53. 岡山大学教育学部)
- 野辺政雄「高梁市の市街地に住む高齢女性の暮らし(その2)」(『岡山大学教育学部研究集録』(117) p.35-41. 岡山大学教育学部)
- 野辺政雄「地方都市に住む高齢女性のパーソナル・ネットワークの基本的特徴」(『岡山大学教育学部研究集録』(118) p.31-37. 岡山大学教育学部)
- 野辺政雄「都市化が高齢女性のパーソナル・ネットワークとソーシャル・サポートに与える影響」(『日本都市社会学会年報』(19) p.123-139. 日本都市社会学会)
- 立山徳子「出稼ぎ調査」(原田勝弘・水谷史男・和気康太(編)『社会調査論：フィールドワークの方法』 p.34-40. 学文社)

10. 政治・国際関係 (Politics, International Relations)

- 藤井和佐「地方都市における女性リーダーの社会的考察：「文化二元論」的アプローチ」(『研究年報』(44) p.19-34. 奈良女子大学文学部)
- 船橋晴俊「「政府の失敗」を生み出す意思決定過程の総合的分析：システム・主体・アリーナの無責任型運動」(船橋晴俊・角 一典・湯浅陽一・水澤弘光(編)『「政府の失敗」の社会学：整備新幹線建設と旧国鉄長期債務問題』 p.169-200. ハーベスト社)
- 春木育美「韓国における女性国会議員の特性」(『同志社社会学研究』(5) p.115-123. 同志社社会学会)
- 春木育美「韓国における政治改革運動の資源動員構造：2000年総選市民連帯の落選運動を事例として」(『地域社会学会年報』地域社会学会年報13集(ハーベスト社))
- 長谷川秀樹「「複合化」するフランス：コルシカ自治改革をめぐる」(『千葉大学社会文化科学研究』(5) p.11-20. 千葉大学大学院社会文化科学研究科)
- 長谷川秀樹「コルシカという難問：ジョスパン制度改革と共和国論争」(三浦信孝(編)『普遍性が差異か：共和主義の臨界、フランス』 p.87-110. 藤原書店)
- 長谷川秀樹「コルシカ制度改革と共和主義論争：「複合化」するフランス国民国家」(『立命館言語文化研究』13 p.43-52. 立命館大学国際言語文化研究所)
- 長谷川秀樹「コルシカ地位改革の法的分析：立法権・地域語・権限移譲」(『立命館大学人文科学研究所紀要』(77) p.35-60. 立命館大学人文科学研究所)

- 長谷川秀樹「コルシカ島(フランス)における制度改革とその課題：国家と島嶼の関係変容についての一考察」(『島嶼研究』(2) p.1-20. 日本島嶼学会)
- 長谷川秀樹「ヨーロッパ多言語主義とフランス」(『東京大学関連社会科学』(10) p.84-100. 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻)
- 橋爪大三郎; ファクレジャハニ, アレゾ; 金子賢典; 土谷真紀子; 淵元 哲「学生たちの「米国テロ事件」論争」(『中央公論』116 p.82-89. 中央公論新社)
- 橋爪大三郎・王金鳳「小泉内閣以後の日本とアジア」(『二十一世紀』總第六十七期(10月)) p.35-41. 香港中文大學・中國文化研究所)
- 橋爪大三郎「『首相参拝』は合憲である」(『諸君』33(10) p.69-77. 文藝春秋社)
- 橋爪大三郎「政治の教室」(『広告批評』No.251 p.105-128. マドラ出版)
- Hirano, Hiroshi. "Political Change and Economic Voting in Japan" Nakano, Masataka. 'Keio Communication Review.' (34) p.87-105. Keio University.
- Kakegawa, Tomiko. "The Japan Chronicle and Its Editors: Reflecting Japan to the Press and the People. 1891-1940" Nakano, Masataka. 'Japan Forum.' 13 p.27-40. Routledge, British Association for Japanese Studies.
- 中山ちなみ「民主主義の受容と政治参加：意思反映システムの有効性と大衆への信頼感の検討」(『京都社会学年報』(9) p.39-54. 京都大学文学部社会学研究室)
- 西平重喜「選挙あれこれ：その1 イギリスの選挙」(『市場調査』(248) p.20-23. 輿論科学協会)
- 西平重喜「選挙あれこれ：その2 フランスの選挙」(『市場調査』(249) p.16-24. 輿論科学協会)
- 西平重喜「比例代表制の計算方法とその意味」(『選挙研究』(16) p.114-124. 日本選挙学会)
- 田嶋淳子「東アジアにおける国際人口移動：中台関係からのアプローチ」(『淑徳大学社会学部紀要』(35) p.109-129. 淑徳大学社会学部)
- 竹下俊郎「マスメディアと政治」(池田謙一(編)『政治行動の社会心理学』 p.26-35. 北大路書房)
- 綿貫譲治「〈書評論文〉 間場寿一編『講座社会学9 政治』」(『社会学評論』51(4) p.479-481. 日本社会学会)
- 山田一成「無知と無関心の政治心理」(池田謙一(編)・高木 修(監修)『シリーズ21世紀の社会心理学6 政治行動の社会心理学：社会に参加する人間のこころと行動』 p.62-73. 北大路書房)

11. 社会運動・集合行動 (Social Movement, Collective Behavior)

- 阿部勘一「サイバースペースで何が起きているか」(読売新聞社広告局(編)『メディアと広告』 p.57-64. 読売新聞社)
- 株本千鶴「社会運動としてのホスピス運動：専門職の自己変革と戦略としての医療化」(『人文学報』(319) p.43-76. 東京都立大学人文学部)
- 三橋利光「国際社会学の試みIII：トランスナショナル(国境を越える)運動・現象(その2)：NGO活動の展開」(『東洋英和女学院大学人文・社会科学論集』(18) p.191-245. 東洋英和女学院大学)
- 森 元孝「運動の展開過程と制度化」(長谷川公一(編)『講座 環境社会学第4巻：環境運動と政策のダイナミズム』 p.91-120. 有斐閣)
- 森 玲子「男女共同参画社会基本法成立の背景と意義：NGO活動とジェンダーの視点から」(『大分大学教育福祉科学部研究紀要』 p.263-271. 大分大学)
- 荻野達史「文化変動の組織化：「ひと」運動の研究(下)」(『人文論集』52 p.39-82. 静岡大学人文学部)
- 山本英弘・渡辺 勉「社会運動の動態と政治的機会構造：宮城県における社会運動イベントの計量分析, 1986-1997」(『社会学評論』52(1) p.147-162. 日本社会学会)
- Yazawa, Shujiro. "Capitalism and Social Movement in the Midst of Crisis" Lacso, Isa. 'Egudady Globalization.' 46 p.61-62. LACSO, University of Central Venezuela.

12. 経営・産業・労働 (Management, Industry, Labor)

- 阿部勘一「若者のコミュニケーション観, 消費様式からみた現代の消費社会」(『読売ADレポートオッホ』 p.21-23, 23-25, 21-23. 読売新聞社広告局マーケティング部)
- 油川 洋「自治体の地方債の格付けの可能性」(『平成12年度地域金融・経済及び地域社会に関する調査研究論文集』(10) p.1-21. 東北郵政局)
- 榎本 環「ホワイトカラー概念の再考」(『社会学年誌』(42) p.69-82. 早稲田社会学会)
- 榎本 環「ホワイトカラー研究の概要：戦後国内研究史の動向と可能性」(『ソシオロジカル・ペーパーズ』(10) p.69-112. 早稲田大学大学院社会学院生研究会)
- 石田 仁・谷口洋幸「ホモバーに從事する若者たち」(矢島正見・耳塚寛明(編)『変わる若者と職業世界：トランジションの社会学』 p.167-181. 学文社)
- 石田光規「パーソナルネットワークの多様性：その構造と機能」(『年報社会学論集』(14) p.126-138. 関東社会学会)

- 石川 准「感情労働とは何か」(『看護管理』11 p.881-886. 医学書院)
- 上林千恵子「外国人研修・技能実習制度と中小企業」(NIRA・シチズンシップ研究会(編)『多文化社会の選択』 p.109-121. 日本経済評論社)
- 上林千恵子「中小企業の育児支援と育児休業制度：中小企業19社の事例から」(『社会志林』47 p.129-158. 法政大学社会学部)
- 鐘ヶ江晴彦「在米日系企業とアメリカ進出日本企業における雇用管理の実態：人権問題への対応を中心に」(『現文研』(77) p.72-88. 専修大学現代文化研究会)
- 小島 茂「商品開発と地域ビジネスモデル」(『日本都市学会年報』(33) 日本都市学会)
- 小谷 幸「『東京管理職ユニオン』の組織と活動：活動参加を通じた組合員の意識変容」(『ヒューマンサイエンスリサーチ』(10) p.173-200. 早稲田大学大学院人間科学研究科)
- 小谷 幸「『東京管理職ユニオン』組合員の意識変容」(『日本労働社会学会年報』(12) p.149-179. 東信堂)
- 熊田俊郎「日本の近代化過程におけるアントルプルヌールシップ形成と福沢諭吉：一地方名望家の企業活動を例として(1)」(『駿河台法学』15 p.189-205. 駿河台大学法学会)
- 黒田英一「集団就職世代の技能修得：インキュベーターの街「東京大田」での就業体験」(『研究紀要』24 p.69-88.)
- 李 叟珍「平成不況下の労組の経営参加の実態と成果」(連合総合生活開発研究所(編)『労働組合の未来をさぐる：変革と停滞の90年代をこえて』 p.57-151. 連合総研)
- 三浦雄二「日本産業社会における統合と統制」(『三田商学研究(慶大)』44 p.55-72.)
- 長沢孝司「モンゴル青年の生活と就労問題」(『日本福祉大学社会福祉論集』(105) p.79-92.)
- 岡本英雄「〈書評論文〉北川隆吉編『講座社会学5 都市』」(『社会学評論』51(4) p.469-473. 日本社会学会)
- 笹谷春美「ケアワークのジェンダー・パースペクティブ：ホームヘルプ労働を中心に」(『女性労働問題研究』(39) p.59-67. 女性労働問題研究協会)
- 仙田幸子「コース別雇用管理とジェンダー：多様性を活かす」(『ジェンダーマネジメント21世紀型男女共創企業に向けて』 p.235-265. 東洋経済新報)
- 鈴木富久「企業別労組と企業内専制の現代的日本の特質」(『経済科学通信』(97) p.58-62.)
- Tamaki,Matsuo; Yamaguchi,Keiko. "The Employment Structure of Homeless People:Preliminary Findings from the Eastern Tokyo Homelessness Survey" Nakano.Masataka. 'Journal of the Faculty of International Studies Utsunomiya University.' (11) p.83-99. Faculty of International Studies Utsunomiya University.
- 田中重人「家事専従者の労働供給の可能性：家事時間量分布に基づく推計(〈特集〉専業主婦と労働市場)」(『日本労働研究雑誌』(493) p.4-14. 日本労働研究機構)
- 梅澤 正「経営文化・組織文化・企業文化：研究の足跡と展望」(『経営文化ジャーナル』1 p.15-21. 松蔭女子大学)
- 山田信行「現代日本における企業間関係の特質：電機産業における「協力会」の事例分析」(『帝京社会学』(12) p.189-205. 帝京大学文学部社会学科)
- 材木和雄「姫路市の産業化と産業構造の変化」(藤井勝(編)『兵庫県内農村の変動過程に関する研究(平成10-12年度科学研究補助金成果報告書)』 p.19-34. 神戸大学社会学研究室)

13. 人 口 (Population)

- 古田隆彦「837万人の移民がいる日本：2050年日本「多民族」国家試案」(『中央公論』2001年10月号 p.162-169. 中央公論新社)
- 古田隆彦「人口減少時代のレジャー産業」(『月刊レジャー産業資料』2001年7月号 p.35-38. 総合ユニコム)
- 古田隆彦「人口減少時代の農業の課題」(『Antenna』2001年3月号 p.24-27. 全国土地改良事業団体連合会)
- 古田隆彦「人口減少社会のマーケティング・キーワードは差延化」(『宣伝会議』2001年8月号 p.69-71. 宣伝会議)
- 古田隆彦「人口社会学から見た21世紀の企業経営」(『経済人』2001年1月号 p.34-36. 関西経済連合会)
- 伊藤まゆ・田中重人「意識のなかの高齢社会」(川端 亮・田中重人(編)『吹田市民のコミュニティ・ネットワークに関する調査報告書』 p.124-132. 大阪大学大学院人間科学研究科社会環境学講座先進経験社会学研究分野)
- 嵯峨座晴夫「エイジングの人口学」(『人口学研究』(29) p.1-6. 日本人口学会)
- 嵯峨座晴夫「少子高齢社会における子供たち：人口教育の必要性の提言」(『長寿社会レポート』(19) p.2-6. サンセイ長寿社会研究所)
- 嵯峨座晴夫「男女・年齢構成の特徴とその変化」(『統計』52 p.1-8. 日本統計協会)
- 嵯峨座晴夫「都市高齢者の一人暮らしの現状と将来」(『月刊総合ケア』11 p.6-11. 医歯薬出版)
- 店田廣文「イスラム社会の人口と都市化」(『世界と人口』(331) p.55-65. (財)家族計画国際協力財団)
- 鵜飼照喜「地元地域の動向」(鵜飼照喜(編)『上山田町新山地区環境調査報告書』 p.11-18. 上山田町新山地区環境調査団)
- 若林敬子「人口問題と環境問題：中国の事例を中心に」(飯島伸子(編)『環境社会学第5巻：アジアと世界：

地域社会からの視点』 p.121-152. 有斐閣)

若林敬子「中国における人口流動：盲流から民工潮へ」(塚田誠之・瀬川昌久・横山廣子(編)『流動する民族：中国南部の移住とエスニシティ』 p.83-102. 平凡社)

Young, Frank W.; Minai, Keiko. "The Structural Determinants of Mortality in Japanese Prefectures" Stars, Roy. 'International Journal of Japanese Sociology.' 10 p.45-55. Japan Sociological Society.

14. 教 育 (Education)

Arimoto, Akira. "Summary of Progress of the Higher Education Research Project and the Meaning of the President's Summit" Nakano, Masataka. 'RIHE International Publication Series.' (10) p.1-10.

有本章「FDの制度化における社会的条件の役割」(『大学論集』(31) p.1-16. 広島大学大学教育研究センター)

有本章「大学教授職の国際比較」(『IDE現代の高等教育』(432) p.37-42.)

有本章「大学評価システムの革新と展開」(丹保憲仁・大南正瑛(編)『大学評価を読む』 p.57-66. 大学基準協会)

有本章「報賞体系の中の研究評価：学問の論理の構造と機能」(『大学評価研究』(1) p.16-24. 大学基準協会)

後藤美樹・牧野暢男「『消費者』としての子どもの地位と影響力」(『人間研究』(37) p.9-20. 日本女子大学教育学科の会)

平沢和司「きょうだい数・出生順位と学歴」(藤見純子(編)『認知された家族ときょうだい関係』 p.83-97. 日本家族社会学会)

平田周一「『書評論文』刈谷剛彦・菅山真次・石田浩編『学校・職安と労働市場：戦後新規学卒市場の制度化過程』」(『社会学評論』52(2) p.348-354. 日本社会学会)

広田照幸「『青少年の凶悪化』言説の再検討」(藤田英典・黒崎勲・片桐芳雄・佐藤学(編)『教育学年報8:子ども問題』 p.115-150. 世識書房)

石田 浩・刈谷剛彦・菅山真次「『くりプライ』『学校・職安と労働市場』書評論文リプライ」(『社会学評論』52(2) p.355-358. 日本社会学会)

石川 准「自己実現を支援する学校と学校カウンセリングをめぐる論点整理のために」(『教育社会学研究』68 p.105-124. 東洋館出版社)

加藤千恵「ジェンダーバイアスの意識化とその変容：高等教育における試みと今後の課題」(『東京女学館短期大学紀要』(24) p.99-109. 東京女学館短期大学)

小浜ふみ子「教養教育：衰退か再生か?」(『一般教育論集』(21) p.1-16. 愛知大学一般教育研究室)

黒柳晴夫「インドネシアにおける初等教育とノンフォーマル・エデュケーション」(『国際問題研究所紀要』(115) p.1-28. 愛知大学国際問題研究所)

牧野暢男「青少年の規範学習と逸脱抑制メカニズム」(『季刊 社会安全』(42) p.20-30. (財)社会安全研究財団)

牧野暢男「変わる社会・変わる教育と子ども」(『女子大通信』(635) p.2-13. 日本女子大学通信教育事務部) ましこひでのり「世界化の進行下における国民史：『国民の歴史』の教育社会学的検討」(『教育』51 p.117-123. 国土社)

宮島直文「『人間性』をめぐる自然科学および人文社会科学の言説：社会生物学(行動生物学)と社会学を中心に」(『立正大学社会学・社会福祉学論叢』(34) p.45-54. 立正大学社会学・社会福祉学会)

根橋正一「日・台学生の社会意識に関する比較研究：流通経済大学、台湾輔仁大学学生調査から」(『流通経済大学社会学部論叢』12 p.97-110. 流通経済大学出版会)

多賀 太・稲永由紀・中田周作「『子ども研究』の方法に関する一考察：学会誌掲載論文の数量的分析と研究者のパーソナリティから」(『久留米大学文学部紀要人間科学科編』(12/13) p.78-89. 久留米大学文学部)

武井健一「教師との相互作用における生徒のジェンダー形成：ストラテジーとしてのジェンダー」(『ソシオロジカル・ペーパーズ』(10) p.57-68. 早稲田大学大学院社会学院生研究会)

Takemura, Hideki. "An Educational Perspective on Japan: Characteristics and Changes of education in Japan and educational challenges facing Japan in the 21st century" Nakano, Masataka. 'ANNUAL of the Teacher Training Center Keio University.' (11) p.13-21.

田中節雄「『国家・市民社会と教育の位相』書評」(『教育社会学研究』69 p.136-138. 日本教育社会学会)

田中節雄「学校の論じ方：存立のメカニズム＝変革の論理」(情況出版編集部(編)『教育の可能性を読む』 p.106-125. 情況出版)

天童睦子「ジェンダーとヘゲモニー支配」(柴野昌山(編)『文化伝達の社会学』 p.102-131. 世界思想社)

徳川直人「学校教育と階級/階層・ジェンダー・エスニシティ：能力主義の二面性」(笹谷春美・小内 透・吉崎祥司(編)『階級・ジェンダー・エスニシティ:21世紀の社会学の視角』 p.200-220. 中央法規出版)

恒吉僚子「教育の国際化と多様な『多文化教育』：日米の教室から」(梶田孝道(編)『国際化とアイデンティティ』 p.61-89. ミネルヴァ書房)

- 恒吉僚子「比較視点から見る日本の子どもの関係性の“危機”」(『国立婦人教育会館紀要』5 p.27-33.)
 Uesugi, Takamichi. "Adult Education: Its Institutionalisation and Peinstitutionalisation" K nzei, Klaus. "The Analytical Perspectives of The Family Sociology." 46 p.195-202. Böhlan.
 上杉孝實「成人教育施設の歴史的発達と施設：国際比較研究の視点」(小林文人・佐藤一子(編)『世界の社会教育施設と公民館：草の根の参加と学び』 p.18-32. エイデル研究所)
 渡辺雅子「説明スタイルの日米比較：初等教育に見る異文化の意味」(『社会学評論』52(2) p.333-347. 日本社会学会)

15. 文化・宗教・道徳 (Culture, Religion, Morality)

- 赤江達也「宗教と政治の間：近代日本のナショナリズムと雑誌の運動としての無教会」(『現代社会理論研究』11 p.176-188. 現代社会理論研究会)
 赤江達也「無教会派知識人と近代：日本におけるキリスト教の社会：思想史的位置」(『ソシオロギス』25 p.69-86. ソシオロギス編集委員会)
 秋庭 裕「霊劇と霊能発動：宗教法人真如苑における」(『人間関係論集』(18) 大阪女子大学人文社会学部人間関係学科)
 朝倉恵俊「ウェーバー宗教社会学の視点」(『社会学部紀要』(19) p.1-11. 龍谷大学社会学部学会)
 Cassegard, Carl. "Murakami Haruki and the Naturalization of Modernity" Starrs.Roy. 'International Journal of Japanese Sociology.' 10 p.80-92. Japan Sociological Society.
 深水顕真「ビハラー活動の現状と課題」(『広島法学』25 p.189-210. 広島大学法学会)
 長谷川秀樹「フランスにおける地域語と人権」(山下健次・中村義孝・北村和生(編)『フランスの人権保障：制度と理論』 法律文化社)
 橋爪大三郎「いつまでたってもビートルズ」(『ザ・ビートルズ：ザ・ビートルズの逆襲(KAWADE夢ムック文藝別冊)』通巻279号 p.25-29. 河出書房新社)
 橋爪大三郎「宗教がわかれば世界がみえる」(『ちくま』通巻364号 p.10-11. 筑摩書房)
 橋爪大三郎・島田裕巳「イスラム・原理主義・オウム：宗教とテロルの研究」(『諸君』33(2001.11月号) p.68-77. 文藝春秋社)
 大飼裕一「落語：知識社会学の糸口」(『都市情報学研究』(6) p.35-43. 名城大学都市情報学部)
 株本千鶴「看病と死別の物語：ガンで亡くなったある中年女性の死をめぐる」(副田義也(編)『死の死学』p.69-124. 岩波書店)
 櫻村愛子「自己決定」性の増大がもたらす宗教的「外傷」について」(『文明21』(7) p.99-110. 愛知大学国際コミュニケーション学会)
 櫻村愛子「個人インタビュー調査から見た精神世界の社会性(1)」(『文学論叢』(123) p.351-368. 愛知大学文学界)
 櫻村愛子「個人インタビュー調査から見た精神世界の社会性(2)」(『文学論叢』(124) p.249-262. 愛知大学文学会)
 片岡栄美「消費文化・情報メディア体験からみた青少年のライフスタイルと価値志向」(内閣府政策統括官(編)『日本の青少年の生活と意識(第2回調査)』 p.237-251. 内閣府政策統括官)
 加藤彰彦「死生観のゆくえ：死と出会う日本社会」(加藤彰彦(編)『変容する人生：ライフコースにおける出会いと別れ』 p.148-169. コロナ社)
 Kawabata, Akira; Akiba, Yutaka. "Deep into the Shinnyo Spiritual World" Starrs.Roy. 'International Journal of Japanese Sociology.' 10 p.5-15. Japan Sociological Society.
 Kawata, Koh. "Sekimon Shingaku on Subjectivity" Nakano, Masataka. 'Monograph Series of the Institute for Interdisciplinary Studies at Kyoto Gakuen University.' (1) p.9-23. Institute for Interdisciplinary Studies, Kyoto Gakuen University.
 Kawata, Koh. "Sekimon Shingaku on Subjectivity" Nakano, Masataka. 'Monograph Series of the Institute for Interdisciplinary Studies at Kyoto Gakuen University.' Institute for Interdisciplinary Studies, Kyoto Gakuen University.
 川田 耕「国家・道徳・主体：17世紀後半の民衆物語にみる自己抑制的主体の登場」(『社会学評論』52(2) p.233-249. 日本社会学会)
 川田 耕「復讐の物語にみる父殺しの感情：十八世紀前半の敵討物について」(『経済学部論集』11 p.1-28. 京都学園大学経済学部学会)
 金光和道・加藤 実・鈴木一彦「『霊地』という経験：本教における「聖地」論への試み」(『金光教学』(41) p.70-120. 金光教教学研究所)
 小坂真弓「生神金光大神」の自覚とその意味について」(『金光教学』(41) p.35-69. 金光教教学研究所)
 倉橋重史「絵画の社会学：2」(『佛教大学社会学部論集』34)
 真鍋祐子「韓国人のエスニシティ形式と白頭山「巡礼」：その歴史社会学的考察」(『現代韓国朝鮮研究』1 p.55-66. 現代韓国朝鮮学会)
 真鍋祐子「現代韓国のナショナリズムとツーリズム：白頭山への巡礼観光をめぐる」(『旅の文化研究所研究報告』(9) p.79-90. 旅の文化研究所)

- 圓田浩二「嗜癖としての摂食障害：セルフ・コントロールと強迫する社会」(『現代の社会病理』(16) p.41-53. 日本社会病理学会)
- 松本由紀子「都市空間における墓地：非日常空間の比較論への試み」(小島克己・藤村正之(編)『非日常を生み出す文化装置』 p.155-177. 北樹出版)
- 三木 英「巡礼の創出・聖地の出現」(三木 英(編)『復興と宗教:震災後の人と社会を癒すもの』 p.135-172. 東方出版)
- 三木 英「池田昭『ヴェーバーの日本近代化論と宗教』(書評)」(『宗教研究』75 p.122-129. 日本宗教学会)
- 三木 英「被災地の教団」(三木 英(編)『復興と宗教:震災後の人と社会を癒すもの』 p.11-24. 東方出版)
- 森岡清美「飛騨地方における真宗の展開：とくに白川郷の真宗寺院について」(『淑徳大学社会学部研究紀要』(35) p.173-187. 淑徳大学社会学部)
- 村田充八「阪神大震災と聖書：震災後の光」(『神戸と聖書』編集委員会・岩村義雄・太田正紀・白井幸雄・長谷川潤・正田眞次・村田充八(編)『神戸と聖書:神戸・阪神間の450年の歩み』 p.239-243. 神戸新聞総合出版センター)
- 中野 毅「カルト/セクト論争と宗教ナショナリズム」(『ソシオロジカ』26 p.25-42. 創価大学社会学会)
- 中野 毅「宗教研究と現象学：宗教現象学と現象学的社会学の相関性をめぐって」(『ソシオロジカ』25 p.23-55. 創価大学社会学会)
- 中野 毅「戦後の政教関係と宗教の政治活動」(國學院大学日本文化研究所(編)『日本の宗教と政治:近現代130年の視座から』 p.150-189. 成文堂)
- 中野 毅「文化闘争としてのアメリカ・カルト論争」(『宗教法』(20) p.167-193. 宗教法学会)
- 中筋由紀子「生きられた伝統：先祖祭祀を事例にして」(『愛知教育大学研究報告(人文・社会科学編)』50 p.161-168. 愛知教育大学)
- 根橋正一「障害者旅行論序説」(『流通経済大学社会学部論叢』12 p.1-21. 流通経済大学出版会)
- 西山哲郎「差異を乗り越えるものとしてのスポーツ：スポーツにおける文化帝国主義とグローバル文化の可能性」(『スポーツ社会学研究』9 p.106-118. 日本スポーツ社会学会)
- 新田光子「西本願寺関東別院と大谷光瑞」(『佛教史研究』(38) p.70-88. 龍谷大学佛教史研究会)
- 沼尻正之「カリスマの比較歴史社会学：ヴェーバーとそれ以後」(『大航海』(41) p.161-167. 新書館)
- 大林浩治「社会変動の中の『昭和九・十年事件』：教団秩序再編と教養・制度の位相」(『金光教学』(41) p.1-34. 金光教学研究社)
- 大村英昭「〈書評論文〉宮島喬編『講座社会学7 文化』」(『社会学評論』51(4) p.474-478. 日本社会学会)
- 大野道邦「文化社会学をめぐる問題」(『人間文化研究科年報』(16) p.133-143. 奈良女子大学大学院人間文化研究科)
- 阪本俊生「プライバシーの解釈学：記号解釈の視点からプライバシー意識の解明の試み」(『南山経済研究』10 南山大学経済学会)
- 阪本俊生「現代の社会関係と敬語の可能性」(『言語』(122) p.34-42. 大修館書店)
- 阪本俊生「他人のまなざしとアイデンティティ」(『研修紀要』(122) 日本理容美容教育センター)
- 佐藤久光「平成期における四国遍路の動向と実態」(『神戸常盤短期大学紀要』(22) p.51-66.)
- 佐藤久光「平成期における西国巡礼の動向と実態」(巡礼研究会(編)『巡礼論集1：巡礼研究の可能性』 p.125-154. 岩田書院)
- Suzuki,Masataka. "Le Chamanisme Japonais en Transition" Jan-Pierre.Berthon: Anne,Bouchy; Pierre-F.Souyri. 'Identités,Marges.Médiations:Regards Croisés.sur La Société Japonaise.' (19) p.225-249. Ecole Française d'Extrême-Orient.
- Suzuki,Masataka. "The Present Situation of Japanese Folklore Studies" Nakano.Masataka. 'Asian Research Trends.' 13 p.69-74. 'The Centre for East Asian Cultural Studies for UNESCO.
- 鈴木正崇「スリランカの龍」(『アジア遊学』(28) p.23-32. 勉誠出版)
- 鈴木正崇「儀礼から絵画へ.そしてナショナリズムへ：インド民衆世界の変容」(『Science of Humanity(人文学と情報処理)』(38) p.72-76. 勉誠出版)
- Suzuki,Yuzuru. "Organizational Changes and Nationalism in the Meiji Era:Critical Evaluation of Eleanor Westrey's Immitation and Innovation:The Transfer of Western Organizational Paterus to Meiji Japan" Nakano,Masataka. 'Sociology and Anthropology.' (1) p.103-112. Kyushu University.
- 谷 富夫「現代社会と宗教」(倉沢進・秋元律郎・岩永雅也(編)『社会学入門』 p.201-220. 放送大学教育振興会)
- 渡辺雅子「ブラジルにおける日系新宗教の展開」(『宗教研究』74 p.280-281. 日本宗教学会)
- 渡辺雅子「金光教のアマゾン布教：ロンドン教会の展開を中心として」(『明治学院論叢 社会学・社会福祉学研究』(109) p.89-161. 明治学院大学)
- 渡辺雅子「在日日系ブラジル人信者の新宗教の対応：天理教と創価学会の比較」(『明治学院大学社会学部付属研究所年報』(31) p.21-36. 明治学院大学)
- 吉原和男「徳教の多国籍化とネットワーキング」(『アジア遊学』(24) p.18-32. 勉誠出版)
- 吉澤弥生「レイモンド・ウィリアムズとメディア社会学：『テレビジョン』の視点と方法」(『社会学評論』

16. 社会心理・社会意識 (Social Psychology, Social Consciousness)

- 大光寺耕平「精神分析的主体のオートポイエーシス」(『社会学評論』52(1) p.86-101. 日本社会学会)
- 船津 衛「自我とコミュニケーション」(倉沢進・秋元律郎・岩永雅也(編)『新訂社会学入門』 p.42-51. 放送大学教育振興会)
- 花野裕康「精神疾患の社会的表徴：内部観測論によるモデルと脱構築」(『社会学評論』52(1) p.69-85. 日本社会学会)
- 橋爪大三郎・佐々木 宏・佐藤可士和・前田知巳・松田康利「座談会 新世紀広告戦略会議」(『広告批評』(245) p.108-124. マドラ出版)
- 橋爪大三郎・上田紀行「カリスマ対談」(『大航海』41(1月号別冊) p.176-193. 新書館)
- 平野 浩「人はなぜ投票に行くのか：投票参加の社会心理」(池田謙一(編)『政治行動の社会心理学』 p.122-132. 北大路書房)
- 井手 立・田中重人「家意識の現在：老親扶養を中心に」(川端 亮・田中重人(編)『吹田市民のコミュニティ・ネットワークに関する調査報告書』 p.82-89. 大阪大学大学院人間科学研究科社会環境学講座先進経験社会学研究分野)
- 鎌田大資「ある問題患者の生活と意見：にせの感情理解について」(『相山女学園大学研究論集』32 p.175-202. 相山女学園大学)
- 亀山聖未「く健康」という不安：ある「健康食品宣伝会」参加者の語りから」(『中央大学社会科学研究所年報』(5) p.157-173. 中央大学社会科学研究所)
- 桂 良太郎「家計調査にみる高齢者のライフスタイル調査研究報告書」(岡本祐三・野々山久也・山口泰雄(編) p.14-16. (財)兵庫県高齢者生きがい創造協会)
- 菊澤佐江子「自己報告ディストレス尺度構造の日米比較：NFR,NSFHを用いて」(『家族社会学研究』12(2) p.247-259. 日本家族社会学会)
- 菊澤佐江子「男女にみるエイジング・役割累積・ディストレス：社会的文脈としてのライフステージ」(『社会学評論』52(1) p.2-15. 日本社会学会)
- Kunagai,Fumie. "Japanese Elderly in the Information Age Society" Nakano,Masataka. 'Annual Review of the Institute of International Relations of Kyorin University.' 4 p.95-147. Institute of International Relations of Kyorin University.
- Mackawa,Michiko. "The Dilemma of Authentic Self Ideology in Contemporary" Starrs,Roy. 'International Journal of Japanese Sociology.' 10 p.16-28. Japan Sociological Society.
- Manabe,Kazufumi. "Japanese Value Orientation from a Comparative Perspective:Inconsistent,Discrepant and Pluralistic Patterns" Nakano,Masataka. 'Kwansei Gakuin University School of Sociology Journal.' (90) p.25-33. The School of Sociology Study Association Kwansei Gakuin University.
- Manabe,Kazufumi. "Objective and Subjective Indicators on Alcoholic Drinks in Japan" Nakano,Masataka. 'Kwansei Gakuin University Social Sciences Review.' (26) p.1-8.
- 圓田浩二「カタルシスと知的創造のインタビュー：方法論的考察」(『社会学評論』52(1) p.102-117. 日本社会学会)
- 西脇和彦「'70年代・'80年代・'90年代の生活文化：安定成長期・バブル期・平成不況期」(『学苑・環境文化特集』(737) p.136-151. 昭和女子大学近代文化研究所)
- 奥山真知「『ポスト・シオニズム』状況におけるユダヤ移民の語りに見られる様々な意味世界(I)」(『人間科学』19 p.25-50. 常磐大学人間科学部)
- 高橋博子「『生きがいとしてのく学び』」(高橋勇悦・和田修一(編)『いきがいの社会学』 p.115-138. 弘文堂)

17. コミュニケーション・情報・シンボル (Communication, Information, Symbol)

- 福永英雄「プライバシー・情報・空間」(『法政論叢』38 p.116-125. 日本法政学会)
- 福永英雄「高度情報文明・プライバシー・法」(比較法史学会(編)『文明と法の衝突:比較法史研究(9)―思想・制度・社会』 p.193-206. 未来社)
- 堀 薫夫「大学生の読書と電子メディア利用に関する調査研究：読書とインターネットの親近性」(『大阪教育大学紀要IV』50 p.147-156. 大阪教育大学)
- 池谷のぞみ「生活世界と情報」(田村俊作(編)『情報検索と情報利用』 p.41-90. 勁草書房)
- 今井信雄「死と近代と記念行為：阪神・淡路大震災の「モニュメント」にみるリアリティ(く特集) 21世紀の社会学へ：視点と構造」(『社会学評論』51(4) p.412-429. 日本社会学会)
- 井上輝子「ジェンダーとメディア：雑誌の誌面を解読する」(鈴木みどり(編)『メディア・リテラシーの現在と未来』 p.118-139. 世界思想社)
- 犬飼裕一「吾輩ははたして猫なのか：漱石,自己言及する知性」(『四日市大学論集』13 p.17-32. 四日市大

学学会経済学部部会)

- 犬塚 先「情報社会の諸相」(『千葉大学人文研究』(30) p.41-89. 千葉大学文学部)
- 加藤清明「青少年と電子メール文化」(『月刊少年育成』46 p.20-26. 社団法人大阪少年輔導協会)
- 加藤清明「二つの世界を往還的に生きる」(『情報処理教育研修助成財団機関誌』(96))
- 城戸秀之「『IT革命』のなかの地域社会と生活者：大分県の事例をもとに」(『経済学論集』(55) p.85-105. 鹿児島大学経済学会)
- 久木元真吾「情報社会と不安：現代女性のインターネットと電子メールの利用」(財団法人家計経済研究所(編)『現代女性の生活意識と不安：消費生活に関するパネル調査(第8年度)』 p.132-151. 財務省印刷局)
- Kumagai,Fumie; Wright,Christopher; Bonney,Norman. “Language and Power in Japanese Transplants in Scotland” Nakano,Masataka. ‘Sociological Review.’ 49 p.237-253. The British Sociological Society.
- 串田秀也「私は-私は連鎖：経験の「分かちあい」と共-成員性の可視性」(『社会学評論』52(2) p.214-231. 日本社会学会)
- 真鍋一史; ホルスト,スウェン「ドイツの外国紹介雑誌に描かれた日本」(『日経広告研究所報』35 p.66-76. 日経広告研究所)
- 圓田浩二「擬似イベントとしての援助交際：マス・メディアにおける現実の社会的構成」(『大阪女学院短期大学紀要』(30) p.209-222. 大阪女学院短期大学)
- 校條善夫「現代社会におけるジャーナリズム性を探る：マスコミ・インターネット・図書館」(『東海女子大学紀要』(20) p.125-137. 東海女子大学)
- Misumi,Kazuto. “Two Levels of Dyscommunication: An Analysis by Boolean Role Model” Nakano,Masataka. ‘Sociological Theory and Methods.’ 16 p.229-243. Japanese Association for Mathematical Sociology.
- 中野克彦「第一回世界華僑華人メディアフォーラム」(『日本僑報』(41,42) 日本僑報社)
- 小川文弥「コミュニケーション構造(その1)(その2)」(田中義久(編)『地域社会における高度情報化の展開とコミュニケーション行為の変容』 p.98-149. 平成9~12年度科学研究費補助金〔基盤研究(B)(D)〕研究成果報告書)
- 小川文弥「情報化の展開と生活世界：1980年代のコミュニケーション構造の変化を中心に」(『東京国際大学論叢人間社会学部編』(7) p.1-23. 東京国際大学人間社会学部)
- 筒井淳也・秋吉美都「新しい公共空間への展望：電子ネットワーク空間における公共性の相互行為論的分析(〈特集〉21世紀の社会学へ：視点と構造)」(『社会学評論』51(4) p.398-411. 日本社会学会)
- 鶴飼大介「文字の帯びる身体性と社会性：文字嚙下の伝承と儀礼をめぐって」(『ソシオロゴス』(25) p.87-101. ソシオロゴス編集委員会)
- 矢澤修次郎「ITがもたらす地域変容と社会運動」(『住民と自治』(455) p.40-43. 自治体問題研究所)
- 矢澤修次郎「情報社会化と組織およびコミュニティネットワーク」(梶田孝道(編)『講座 社会変動7:国際化とアイデンティティ』 p.32-60. ミネルヴァ書房)
- 矢澤修次郎・米田佳代「テレワーク研究の現状と課題」(矢澤修次郎(編)『情報社会化の国際比較研究』 p.75-126. 一橋大学大学院社会学研究科矢澤研究室)

18. 社会病理・社会問題 (Social Pathology, Social Problems)

- Ayukawa,Jun. “The United States and Smoking Problems in Japan” Nonoyama.Hisaya; Shimizu,Hiroaki. ‘Perspective of family sociology.’ 特別号 p.215-242. Aldine de Gruyter.
- 鮎川 潤「地域社会の変動と保護司の役割」(『更生保護』52 p.6-11. 日本更生保護協会)
- 平山満紀「摂食障害と痩せ志向の含意：「人間」の変容」(『江戸川大学紀要『情報と社会』』(11) p.13-25. 江戸川大学)
- 井上真理子「伊丹市1998年度「部落差別の実態等を把握するための調査」に学ぶ」(『ひょうご部落解放』(102) p.27-34. 社団法人兵庫部落解放研究所)
- 井上真理子「臨床社会学の構築をめぐって：文化の臨床」(『現代社会研究』(1) p.53-64. 京都女子大学現代社会学部)
- 石川義之「インセスト家族の親子関係」(木下謙治・小川全夫(編)・鈴木 広(監修)『家族・福祉社会学の現在』 p.141-156. ミネルヴァ書房)
- 石川義之「サバイバーに学ぶ」(穂積純(編)『虐待と尊厳：子ども時代の呪縛から自らを解き放つ人々』 p.237-255. 高文研)
- 石川義之「性的被害とその影響：大阪コミュニティ調査の統計分析」(『アディクションと親族』18 p.69-77. IFP出版部;ヘルスワーク協会)
- 草柳千早「現代社会における「生きづらさ」と「アイデンティティ」：生き方の多様性と社会」(『三田社会学』(6) p.51-65. 三田社会学会)
- 間庭充幸「何が少年を凶悪な犯罪に駆り立てるのか：犯罪方法論序説」(『木野評論』(32) p.82-90. 京都精華大学)
- 間庭充幸「攻撃と犯罪：方法論的考察」(『哲学論集』(47) p.4-26. 大谷大学哲学会)

- 間庭充幸「少年犯罪の質的变化：動機の深層とその背景」(『更生保護』52 p.6-11. 法務省保護局)
- 松永寛明「刑罰公衆の集合意識：「連続射殺事件」報道を題材に」(『法社会学』(54) p.204-219. 日本法社会学会)
- 松永寛明「刑罰制度の構造：経験的研究のための予備的考察」(『市大社会学』(2) p.23-33. 大阪市立大学社会学研究会)
- 森岡清美「宗教と社会事業を媒介するもの：キリスト教徒による娼妓廃業支援事業を手がかりとして」(『社会事業史研究』(29) p.1-14.)
- 佐藤 恵「レイベリングに対する抵抗としての同調：抵抗の社会学に向けて」(『ソシオロジ』46(1) p.55-70. 社会学研究会)
- 佐藤 恵「犯罪被害者のアイデンティティ管理：被害者の社会学に向けて」(『年報社会学論集』(14) p.63-75. 関東社会学会)
- 清水新二「共依存論議の整理に向けて」(清水新二(編)『共依存とアディクション：心理・家族・社会』 p.1-15. 培風館)
- 清水新二「自殺には男女の違いがありますか」(秋山聡平・斎藤友紀雄(編)『自殺問題Q&A：自殺予防のために』 p.76-79. 至文堂)
- 清水新二「自殺の世代的特徴にはどんなものがありますか」(秋山聡平・斎藤友紀雄(編)『自殺問題Q&A：自殺予防のために』 p.73-75. 至文堂)
- 清水新二「社会問題としての自殺問題・社会のメンタルヘルスを考える」(『心の健康』49 p.12-19. 精神衛生普及会)
- 清水新二「薬物乱用者に関する回復可能性イメージ：Vignette調査による一般地域住民とPSWの比較研究」(『日本社会精神医学会雑誌』10 p.11-19. 日本社会精神医学会)
- 山本 功「隣人訴訟がはじまるまで：被害者カテゴリーをめぐって」(『現代社会理論研究』(11) p.122-137. 現代社会理論研究会)
- Yokoyama, Minoru. "Analysis of Japanese Police from the Viewpoint of Democracy" Menachen, Amir; Einstein, Stanley (ed.). 'Policing, Security and Democracy: Theory and Practice.' 23 p.187-209. The Office of International Criminal Justice, Inc.
- 横山 実「日本における少年非行の動向と厳罰化傾向」(『國学院法学』38 p.171-205. 國学院大学法学会)

19. 社会福祉・医療 (Social Welfare, Medical Care)

- Anesaki, Masahira; Munakata, Tsunetsugu. "Health Illness and Health Policy in Japan" Cocherham, William C. 'Blackwell Companion to Medical Sociology.' 2(1992年版) 518p. Blackwell.
- 青山泰子「農村部における育児支援システムと福祉資源の活用」(『社会政策研究』2 p.163-178. 東信堂)
- 原田信一教授古稀記念論文集刊行委員会「社会福祉学の理論と実践」(安藤喜久雄(編)『日本高齢者の仕事と生活』 p.208-227. (株)みづほ)
- 藤崎宏子「高齢者介護と社会的ネットワーク」(『生活経営学研究』(36) p.6-11. 日本家政学会生活経営学部会)
- 船橋恵子「看護とジェンダー」(『看護教育』42 p.14-18. 医学書院)
- Hamaguchi, Haruhiko. "Les soins et les relations intergénérationnelles" Shibano, Shozan. 'Université René Descartes-Paris V, La Qualité de vie dans Les Sociétés Vieillissantes.' 46 p.13-17. Université René Descartes-Paris V.
- 石田 仁「生物学的性別の規準：性別の決定因子を同定する研究に着目して」(『大学院研究年報文学研究科篇』30 p.103-115. 中央大学)
- 金子雅彦「健康増進政策と政策評価」(『防衛医科大学校進学課程研究紀要』(24) p.27-37. 防衛医科大学校)
- 桂 良太郎「シンガポールにおけるソーシャルワーカー協会の現状と課題について」(『ソーシャルワーカー』(6) p.97-101. 日本ソーシャルワーカー協会)
- 桂 良太郎「ベトナムに於ける社会福祉研究の現状と課題：女性及び家族研究の動向調査から」(『奈良大学総合研究所所報』(9) p.155-163. 奈良大学総合研究所)
- 菊池英明「「不正受給」の社会学：生活保護をめぐるモラル・パニック」(『社会政策研究』(2) p.139-162. 東信堂)
- 三重野 卓「福祉社会のシステム論的基礎：共生と最適化の視点から」(三重野 卓(編)『福祉国家の社会学：21世紀における可能性を探る』 p.123-139. 東信堂)
- 中村重信・小谷朋弘・平岡敬子・江頭大蔵・倉重加代「はしがき：3章医師・患者関係の現在」(渡辺 満(編)『現代医療問題の総合的研究』 p.44-66. 平成10年度～12年度科研費研究成果報告書)
- 小川圭子「セカンド・オピニオンの現在地：患者の当事者性追求の観点から」(『社会学研究』(19) p.3-34. 甲南女子大学大学院社会学研究室)
- Sato, Yuko. "Comparative Analysis of Health Care Costs in Japan and the United States: A Simulation of Productivity and Savings Behavior" Nakano, Masataka. 'Japan and the World Economy.' (31) p.429-454. North-Holland.
- 佐藤純一(編)・美馬達哉・村岡 潔・黒田浩一郎・土屋貴志・奥村和代・田口宏昭・寺岡伸悟・野村一夫「ア

- メリカの遺体処理エンバーミングはどのように進められる.自然葬のもつ意味」(佐藤純一(編) 『100問100答』 p.167-172. 河出書房新社)
- 田口宏昭「終末期のケア」(中山 将・高橋隆雄(編)『ケア論の射程』 p.117-155. 九州大学出版会)
- 富江直子「「生存の義務」: 救護法をめぐる政治過程のレトリック」(『社会政策研究』(2) p.119-138. 東信堂)
- 富江直子「「物語」を構成する政治過程: 1960-70年代における高齢者福祉政策を題材として」(『年報社会学論集』(14) 関東社会学会)
- 富江直子「「翻案」される政策理念: 児童政策をめぐる政治過程の社会学的考察」(『社会学評論』 52(2) p.250-265. 日本社会学会)
- 山下袈裟男「在宅ケアの意味と成り立ち」(山下袈裟男(編) 『在宅ケア論: 地域で暮らすための居宅支援システムの構築と展開』 p.11-33. みらい)

20. 計画・開発 (Planning, Development)

- 船橋晴俊「「政府の失敗」と鉄道政策: 研究主題と理論的視点」(船橋晴俊・角 一典・湯浅陽一・水澤弘光(編) 『「政府の失敗」の社会学: 整備新幹線建設と旧国鉄長期債務問題』 p.1-21. ハーベスト社)
- 船橋晴俊「「政府の失敗」の克服のために: 改革の方法の提案」(船橋晴俊・角 一典・湯浅陽一・水澤弘光(編) 『「政府の失敗」の社会学: 整備新幹線建設と旧国鉄長期債務問題』 p.201-223. ハーベスト社)
- 三重野 卓「政策評価と指標体系」(『山梨大学教育人間科学部紀要』 2 p.133-140. 山梨大学)
- Onda, Morio. "Social Development in Asia: From the Viewpoint of Development Sociology" Nakano, Masataka. 'Ryutsu Keizai Daigaku Journal of the Faculty of Sociology.' 11 p.27-50. Ryutsu Keizai Daigaku.
- 湯浅陽一・船橋晴俊「山形・秋田のミニ新幹線の建設経過とその意義」(船橋晴俊・角 一典・湯浅陽一・水澤弘光(編) 『「政府の失敗」の社会学: 整備新幹線建設と旧国鉄長期債務問題』 p.131-147. ハーベスト社)

21. 社会学研究法 (Research Methods in Sociology)

- 稲葉昭英「援助行動を促進・抑制する条件: メタ分析への応用」(鹿又伸夫・野宮大志郎・長谷川計二(編) 『質的比較分析』 p.130-147. ミネルヴァ書房)
- 稲葉昭英「計量社会学的アプローチ」(野々山久也・清水浩昭(編)『家族社会学の分析視角』 p.365-384. ミネルヴァ書房)
- 鹿又伸夫「ブール代数分析の演算」(鹿又伸夫・野宮大志郎・長谷川計二(編) 『質的比較分析』 p.19-41. ミネルヴァ書房)
- 鹿又伸夫・野宮大志郎・長谷川計二「質的比較としてのブール代数アプローチ」(鹿又伸夫・野宮大志郎・長谷川計二(編) 『質的比較分析』 p.3-18. ミネルヴァ書房)
- 町村敬志「行きずりのフィールドワーカーのために: 社会学的にくみる」ということ」(『一橋論叢』 125 p.86-100. 一橋学会)
- 仮田 徹「最近の社会調査テキストにみる社会調査方法論とその課題」(『保健医療社会学論集』(12) p.76-87. 日本保健医療社会学会)
- 仮田 徹「非統計的社会調査の方法論をめぐる: 自由面接法を中心に」(『愛知県立看護大学紀要』 7 p.61-66. 愛知県立看護大学)
- 真鍋一史「国際比較調査におけるレスポンス・スケールの等価性に関する研究(2)」(『関西学院大学社会学部紀要』(89) p.107-121. 関西学院大学社会学部研究会)
- 南 保輔「フィールドに参与することとフィールドを読むこと: フィールドリサーチは(フィールドでの)選択の積み重ねだ」(石黒広昭(編)『AV機器をもってフィールドへ: 保育・教育・社会的実践の理解と研究のために』 p.77-100. 新曜社)
- 南 保輔「相互作用研究におけるフレームバイフレーム分析の方法と可能性: 文脈分析の概略とパソコンでの応用例」(『コミュニケーション紀要』 14 p.129-154. 成城大学大学院文学研究所)
- 三隅一人「二次分析としてのComparative Narratives: 蜂の巣城紛争の再考」(『理論と方法』 16 p.103-120. 数理社会学会)
- 溝口由己・久木元真吾「消費生活に関するパネル調査の実施状況」(『統計』 52 p.32-37. 日本統計協会)
- 村上あかね「郵送調査における無回答の発生: 質問の内容形式と回答者の属性に注目して」(『吹田市民のコミュニティ・ネットワークに関する調査報告書』(5) p.17-27. 大阪大学大学院人間科学研究科社会環境学講座先進経験社会学研究分野)
- 高橋正樹・岸野洋久「思い出の持続と置き換わり: ライフイベント分析からの試み」(『理論と方法』 16 p.47-60. 数理社会学会)
- 玉野和志「「特殊飲食店女子組合員調査」のデータについて」(『日本都市社会学年報』(19) p.219-229. 日本都市社会学会)
- 田中重人・松川太一「調査対象地の概要と調査の経過」(川端 亮・田中重人(編) 『吹田市民のコミュニティ・

- ネットワークに関する調査報告書』 p.1-16. 大阪大学大学院人間科学研究科社会環境学講座先進経験社会学研究分野)
- 田中重人「無効回答の発生」(清水新二(編)『現代日本の家族意識(家族生活についての全国調査(NFR98)報告書No.2-4)』 p.155-179. 日本家族社会学会全国家族調査(NFR)研究会)
- 立山徳子「地域(コミュニティ)調査」(原田勝弘・水谷史男・和気康太(編)『社会調査論:フィールドワークの方法一』 p.63-69. 学文社)
- 徳川直人「ローカルな知と自己内省」(『社会学年報』(30) p.1-18. 東北社会学会)
- 徳川直人「語りの「個と共同性」:リサーチ行為とイデオロギー研究への一視角」(北村 寧・佐久間孝正・藤山嘉夫(編)『新世紀社会と人間の再生』 p.116-133. 八朔社)

23. 社会史・民俗・生活史 (Social History, Folklore, Life History)

- 福岡安則「“日本人だけど台湾人です”:在日華僑2世の聞き取りから」(『埼玉大学紀要』37 p.67-80. 埼玉大学教養学部)
- 今井絵里香「近代家族と「少女」の国民化:少女雑誌『少女の友』分析から」(『教育社会学研究』68 p.225-242. 東洋館出版社)
- 伊藤美登里「家庭領域への規律時間思想の浸透:羽仁もと子を事例として」(橋本毅彦・栗山茂久(編)『遅刻の誕生:近代日本における時間意識の形成』 p.189-209. 三元社)
- 宮内泰介「人びととかつお節」(『オルタ通信』(299) p.32-33. アジア太平洋資料センター)
- 野入直美「石垣島の台湾人.生活史にみる民族関係の変容(二)」(『琉球大学法文学部人間科学科紀要 人間科学』(8) p.103-125. 琉球大学法文学部)
- 岡本智周・笹野悦子「戦後日本の「サラリーマン」表象の変化:『朝日新聞』を事例に」(『社会学評論』52(1) p.16-32. 日本社会学会)
- 清山洋子「統計でみる佐賀の女性50年」(佐賀県女性と生活学習財団(編)『さかの女性史』 p.377-405. 佐賀新聞社)
- 高橋正樹「『社会的表象としてのサラリーマン』の登場:戦前俸給生活者の組合運動をどう見るか」(『大原社会問題研究所雑誌』(511) p.16-30. 法政大学大原社会問題研究所)
- 山下大厚「ジェンダー/セックス/身体:アイデンティティの不連続と攪乱:アスリート人見絹枝における競争的身体とその存在証明をめぐる」(『法政大学大学院紀要』(47) p.127-137. 法政大学大学院)
- 山下大厚「育児・家庭・医療化:ビオ=ポリテックとしての赤ん坊展覧会」(『法政大学大学院紀要』(45) p.13-21. 法政大学大学院)
- 山下大厚「近代身体成立とジェンダー:近代日本の女子体操言説における身体セックス化」(『ソシオロギス』(25) p.102-122. ソシオロギス編集委員会)
- 山下大厚「身体測定のプロテックス:子どもの身体への眼差しと健康優良児表彰」(『年報社会学論集』(14) p.1-14. 関東社会学会)

24. 法 律 (Law)

- 橋爪大三郎「パンドラの匣の開け方」(『Voice』通巻281号 p.108-111. PHP研究所)
- 鹿又伸夫「裁判官の経歴」(鹿又伸夫・野宮大志郎・長谷川計二(編)『質的比較分析』 p.63-78. ミネルヴァ書房)

25. 民族問題・ナショナリズム (Ethnic Problems, Nationalism)

- 阿部利洋「紛争後社会の再生:南アフリカの事例から」(『ソシオロジ』46(2) p.21-36. 社会学研究会)
- Asanizu, Munehiko. "An Overview of Ethnic Diversity in the United States and Canada" Nakano, Masataka. 'Kitami Daigaku Ronshu.' 24 p.59-80. Hokkai Gakuen University of Kitami.
- 朝水宗彦「エスニック・ツーリズムに関する諸研究のアプローチ」(『北見大学論集』23 p.165-180. 北海学園北見大学)
- 朝水宗彦「ニュージーランドにおけるマオリ政策小史」(『北見大学論集』23 p.61-85. 北海学園北見大学)
- 朝水宗彦「ニュージーランドの産業発展における移民の貢献」(『開発政策研究』(3) p.30-40. 北海学園北見大学)
- 朝水宗彦「多民族・多文化社会における学際的研究アプローチ」(『北見大学論集』22 p.155-173. 北海学園北見大学)
- Ayabe, Tsuneo. "Beyond Mandatory Retirement." Hamaguchi, Haruhiko; Sagaza, Haruo. 'Meaning and History of Home Care.' 46 p.1-224.
- 江川直子「白老町アイヌ民族の生活構造と文化」(松本和良・江川直子(編)『アイヌ民族とエスニシティの社

- 会学』 p.161-186. 学文社)
- 橋爪大三郎「歴史教科書をどう考えるか」(『どうちがうの?新しい歴史教科書vsいままでの歴史教科書』夏目BOOKLET.5 p.142-145. 夏目書房)
- 樋口直人「ブラジル・パラナ州における日系人労働者斡旋組織」(『徳島大学社会科学研究』(14) p.69-90. 徳島大学総合科学部)
- 樋口直人「外国人の行政参加システム:外国人諮問機関の検討を通じて」(『都市問題』92 p.69-79. 東京市政調査会)
- 樋口直人「外国人参政権論の日本の構図:市民権論からのアプローチ」(NIRAシチズンシップ研究会(編)『多文化社会の選択:「シチズンシップ」の視点から』 p.39-53. 日本経済評論社)
- Inaba,Nanako; Ogaya.Chiho; Ogasawara,Kimiko; Tanno,Kiyoto; Higuchi.Naoto. "Empowerment of Migrants in Japan:Examining Education Programs of Migrant-concerned NGOs" Nakano.Masataka. 'Studies in Communication Bulletin of the Faculty of Humanities.' (10) p.87-124. Ibaraki University.
- ましこひでのり「想像の共同体「日本」再考」(『社会科学研究』21 p.143-167. 中京大学社会科学研究所)
- ましこひでのり「『沖縄方言論争』というアリーナのゆくえ」(『環:歴史・環境・文明』 p.197-206. 藤原書店)
- ましこひでのり「かな,そしてナショナリズム」(『ことばと社会:多言語社会研究』5 p.37-60. 三元社)
- 南川文里「移民ナショナリズムとエスニシティ:1930年代末の在米日系移民における「民族」」(山脇直司・内田隆三・森正稔・米谷匡史(編)『ネイションの軌跡:20世紀を考える(1):ライブラリ関連社会科学7』 p.183-202. 新世社)
- 小笠原公子・小ヶ谷千穂・丹野清人・稲葉奈々子・樋口直人「外国人居住者の権利と参加:外国人支援組織の可能性」(NIRAシチズンシップ研究会(編)『多文化社会の選択:「シチズンシップ」の視点から』 p.171-186. 日本経済評論社)
- 小ヶ谷千穂・小笠原公子・丹野清人・稲葉奈々子・樋口直人「移住労働者のエンパワーメントに向けて:支援組織による取り組みを中心に」(『茨城大学地域総合研究所年報』(34) p.33-57. 茨城大学地域総合研究所)
- 岡本智周「20世紀後半の米国歴史教科書に表現された「日系アメリカ人」像の変質:多文化教育と共同体統合に関して」(『教育社会学研究』(68) p.127-146. 日本教育社会学会)
- 武田俊輔「民謡の歴史社会学:ローカルなアイデンティティ/ナショナルな想像力」(『ソシオロゴス』25 p.1-20. ソシオロゴス編集委員会)
- 田辺俊介「日本のナショナル・アイデンティティの概念構造:1995 ISSP National Identityデータの実証的検討から」(『社会学評論』52(3) p.398-412. 日本社会学会)
- 樽本英樹「国際移民時代における市民権の問題(特集)21世紀の社会学へ:視点と構造」(『社会学評論』51(4) p.382-397. 日本社会学会)
- 寺田篤弘「在日外国人に対する地方議員の意識について:調査報告書I」(『日本大学国際関係学部研究年報』(22) p.13-23. 日本大学国際関係学部)
- 佟岩・浅野慎一「縫製業の中国人技能実習生・研修生における日本語習得と社会諸関係に関する実証研究(1)」(『神戸大学発達科学部研究紀要』8 p.183-210. 神戸大学発達科学部)
- 佟岩・浅野慎一「縫製業の中国人技能実習生・研修生における日本語習得と社会諸関係に関する実証研究(2)」(『神戸大学発達科学部研究紀要』9 p.167-196. 神戸大学発達科学部)
- Yoshino,Kosaku. "Globalization as "Internationalization":Perspectives on Nationalism in Japan" Starrs.Roy. 'Asian Nationalism in an Age of Globalization.' 67 p.19-33. Japan Library.
- Yoshino,Kosaku. "Japan's Nationalism in a Marketplace Perspective" Guibernau,M.; J.,Hutchinson(ed.). 'Understanding Nationalism.' (19) p.142-163. Polity Press.

26. 比較社会・地域研究〔エリアスタディ〕 (Comparative Study, Area Study)

- Asamizu.Munehiko. "Multicultural Tourism in Australia" Ando.Kikuo. 'Akita English Studies.' 特別号 p.122-131. Akita University.
- 朝水宗彦「オーストラリアの観光教育」(徳久球雄・安村克己(編)『観光教育』 p.77-94. くんぶる)
- 朝水宗彦「歴史の中の国際観光」(徳久球雄・塚本圭一・朝水宗彦(編)『地域・観光・文化』 p.53-72. 嵯峨野書院)
- 藤田弘夫「官の世界・民の世界」(『人文学と情報処理』(38) p.77-80. 勉誠社)
- 藤田弘夫「官僚制:官と民の社会学」(伊原弘・小島毅(編)『知識人の諸相』 p.2-6. 勉誠社)
- 古城利明「フロンティアとしての沖縄」(『法学新報』108 p.417-443. 中央大学法学会)
- Hashimoto.Kazutaka. "A Journey to the Palace of the Dragon King with Professor William I. Elliott:A Sociological Insight to Vietnam" Nakano.Masataka. 'Bulletin of Kanto Gakuin University.' (92) p.209-222. Society of Humanities,Kanto Gakuin University.
- 橋爪大三郎・胡鞍鋼「中国の知識人は健在なり」(『Voice』通巻279号 p.192-199. PHP研究所)
- 池田寛二「現代インドネシアの官僚事情:経済危機と政治改革の渦中で」(『Science of Humanity: Bensei』

38 p.62-66. 勉誠出版)

- 鎌田真弓「多文化主義の新展開：先住民との「和解」(『オーストラリア研究』13 p.46-64. オーストラリア学会)
- 君塚大学「儒教文化測定尺度の構成：日・韓・中の青年意識比較調査をもとに」(『佛教大学総合研究所紀要』(8) p.1-17. 佛教大学)
- 君塚大学「東アジア的価値意識のゆくえ：「文明の衝突」と儒教文化」(『佛教大学総合研究所紀要別冊「日・韓・中における社会意識の比較調査」』(20) p.181-199. 佛教大学)
- 小林和美「韓国大都市近郊農村における若年層の就学流出：大邱広域市S集落の事例」(『村落社会研究』8 p.12-23. 日本村落研究学会)
- 小林月子; 小林浩二; ヘルムート・テプファー; 水谷良彦「岐阜県における高齢化の進行と地域的差異」(『岐阜大学教育学部研究報告—人文科学—』49 p.31-65. 岐阜大学教育学部)
- 黒柳晴夫「ジャワ農村社会におけるインフォーマルな預金・貸付信用組織とその活動」(『相山女学園大学研究論集(社会科学篇)』(32) p.85-104. 相山女学園大学)
- 野津幸治「ブッタート比丘の思想と生涯」(西川潤・野田真里(編)『仏教・開発・NGO:タイ開発僧に学ぶ共生の智慧』 p.85-107. 新評論)
- 坂本真司「NGO「民衆エンパワーメント」戦略の新しい視角：バングラデシュの村人組織にみる自律性生成の契機」(『社会学評論』52(2) p.316-332. 日本社会学会)
- 佐藤 恵「障害者のく自立」とその支援」(『地域社会学会年報』(13) p.115-132. 地域社会学会)
- 玉井真理子「ジェンダー意識と学習・進学意欲のかかわり(下)：T中学校における質問紙調査結果から」(『部落解放研究』143 p.92-100. 部落開放・人権研究所)
- 玉井真理子「ジェンダー意識と学習・進学意欲のかかわり(上)：T中学校における質問紙調査結果から」(『部落開放研究(第142号)』142 p.64-74. 部落開放・人権研究所)
- 店田廣文「イスラーム社会における葬制・墓制の変容に関する試論：現代エジプトの事例」(『ヒューマンサイエンス』14 p.32-42. 早稲田大学人間総合研究センター)
- 店田廣文「エジプトの官と民のあいだ」(『Science of Humanity Bensei』(38) p.100-105. 勉誠出版)
- 田中重人「生活時間の男女差の国際比較：日本・欧米6か国データの再分析」(『年報人間科学』22 p.17-31. 大阪大学大学院人間科学研究科社会学・人間学・人類学研究室)
- 坪内良博「マレー農村の30年：生態適応の終焉を背景として」(『アジア・アフリカ地域研究』(1) p.5-20. 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)
- 山口恵子「フィリピンにおける「ストリートチルドレン」の社会問題化」(『都市問題』92 p.69-82. 東京市政調査会)
- 吉原和男「香港の同姓団体：移住に見る普遍性」(塚田誠之・瀬川昌久・横山廣子(編)『流動する民族:中国南部の移住とエスニシティ』 p.311-331. 平凡社)

27. 差別問題 (Discrimination Problems)

- 石川 准「マイノリティの言説戦略とポスト・アイデンティティ・ポリティクス」(梶田孝道(編)『講座・社会変動7:国際化とアイデンティティ』 p.153-181. ミネルヴァ書房)
- 鐘ヶ江晴彦「外国人労働者の人権と地域社会：日本の現状と市民の意識・活動」(鐘ヶ江晴彦(編)『外国人労働者をめぐる住民意識の現状とその規定要因』 p.18-80. 明石書店)
- ましこひでのり「言語差別現象論：「言語学の倫理と社会言語学の精神」の確立のために」(『社会言語学』I p.3-26. 「社会言語学」刊行会)
- 八木晃介「恐怖の社会的機能と逆機能」(『人権教育研究』(9) p.95-130. 花園大学人権教育研究会)
- 八木晃介「疎外と差別」(『人権教育研究』(9) p.183-211. 花園大学人権教育研究室)
- 山口恵子「東京・山谷にみる包摂と排除の構造：野宿者の増加と寄せ場の変容について」(『解放社会学研究』(15) p.26-53. 日本解放社会学会)

28. 性・世代 (Gender, Generation)

- Aiba, Keiko; Wharton, Amy S. "Job-Level Sex Composition and the Sex Pay Gap in a Large Japanese Firm" Nakano, Masataka. 'Sociological Perspectives.' (12) p.67-87. Pacific Sociological Association.
- 秋山憲治「定年から超定年・脱定年へ」(浜口晴彦・嵯峨座晴夫(編)『定年のライフスタイル』 p.25-44. コロナ社)
- 天野正子「会社からの自立の条件：「家族と会社」の関係のつけ方」(天野正子(編)『団塊世代・新論』 p.147-190. 有信堂)
- 天野正子「自立像の現在形：「もたれあい」から「支えあい」へ」(天野正子(編)『団塊世代・新論』 p.39-84. 有信堂)
- 天野正子「小説に読む老いのメッセージ」(武蔵大学(編)『ライフスタイル考現学』 p.87-129. お茶の水

書房)

- 天野正子「団塊世代の「もう一つの」読み方」(天野正子(編)『団塊世代・新論』 p.3-37. 有信堂)
- 江川直子「貧困・差別・権利回復」(松本和良・江川直子(編)『アイヌ民族とエスニシティの社会学』 p.187-208. 学文社)
- 浜口晴彦「大衆長寿時代の老いとその行方」(『アガトス』(19) p.49-62. アガトス出版編集部)
- 原田 謙・杉澤秀博・小林江里香・Jersey.Liang「高齢者の所得変動に関連する要因：縦断調査による貧困のダイナミクス研究」(『社会学評論』52(3) p.382-397. 日本社会学会)
- 原田健一「南方熊楠の同性愛体験：そのセクシュアリティと言説」(『熊楠研究』(3) p.92-112. 南方熊楠資料研究会)
- 羽田野優子「中学生の運動・スポーツ参加とジェンダー意識：因子分析を手がかりに」(『東京大学大学院教育学研究科紀要』40 p.79-88. 東京大学大学院教育学研究科)
- 石崎裕子「現代日本社会における親密性の変容：「セックスレス・カップル」をめぐる雑誌記事の分析を中心に」(『日本女子大学大学院人間社会研究科紀要』(6) p.113-124. 日本女子大学大学院人間社会研究科)
- 加藤喜久子「職業経歴の形成条件に関するフェミニズム論的考察：スウェーデンにおける労働市場の女性化」(『北海道情報大学紀要』12 p.11-28. 北海道情報大学)
- 小西二郎「変動期における青年の〈友人ネットワーク：自己〉の連関に対する分析視角の検討(下)：高橋勇悦氏の「1.5次関係」論を手掛かりにして」(『北海道大学大学院教育学研究科紀要』(83) p.237-259. 北海道大学大学院教育学研究科)
- 道信良子「性規範の変容とHIV感染リスク」(『ジェンダー研究』4 p.79-94. お茶の水女子大学ジェンダー研究センター)
- 水嶋陽子「高齢期の母娘関係における親密さ」(『人間科学』19 p.15-24. 常磐大学人間科学部)
- 中山忠政「男女共同参画社会基本法の成立」(『高知女子大学紀要社会福祉学部編』50 p.33-39. 高知女子大学)
- 小倉康嗣「ゲイの老後は悲惨か？：再帰的近代としての高齢化社会とゲイのエイジング」(伏見憲明(編)『夢見る老後！(シリーズ クィア・ジャパン 5)』 p.95-108. 勁草書房)
- 小倉康嗣「後期近代としての高齢化社会と〈ラディカル・エイジング〉：人間形成の新たな位相へ」(『社会学評論』52(1) p.50-68. 日本社会学会)
- 小倉康嗣「定年とボランティアズム：「隠居」というライフスタイルの再発見」(浜口晴彦・嵯峨座晴夫(編)『定年のライフスタイル』 p.111-132. コロナ社)
- 大野道夫「高校生の言葉つかい」(高校教育研究会(編)・深谷昌志(代表)『電子メディアの中の高校生』 p.72-84. ベネッセ教育研究所)
- 大野道夫「青少年文化とボランティア活動の展開」(菊地栄治(編)『福祉教育・ボランティア学習の構造と実践に関する総合的研究』 p.138-146. 光和商事)
- 佐々木陽子「総力戦における女性兵士創出：日本・ソ連・アメリカ、三国の比較を通じて」(『相關社会科学』(10) p.21-36. 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻)
- 佐々木陽子「総力戦における動員の形態としての女性表象：戦時ポスターによるジェンダーの表象分析」(『Sociology Today』(11) p.53-71. お茶の水社会学研究会)
- 佐藤 裕「コミュニティ参加における貧困女性の意識変化と女性組織：インド・アーメダバード「スラム・ネットワークング計画」の事例から」(『国際開発研究』10 p.1-18.)
- 渋谷知美「「フェミニスト男性研究」の視点と構想：日本の男性学および男性研究批判を中心に(〈特集〉21世紀の社会学へ：視点と構造)」(『社会学評論』51(4) p.447-463. 日本社会学会)
- 多賀 太「男にとって男女共同参画社会とは？」(『かながわ女性ジャーナル』(19) p.41-58. 神奈川県立かながわ女性センター)
- 山本祥子「更年期：医療化された女性の中高年期」(黒田浩一郎(編)『現代医療と社会』 p.193-216. 世界思想社)
- 矢澤澄子・国広陽子・天童睦子「少子社会の子育てとシティズンシップ：都市女性の育児戦略と市民・ジェンダー意識」(『経済と社会』東京女子大学社会学会紀要』(29) p.23-47. 東京女子大学社会学会)
- 材木和雄「意識調査からみた広島市の中年世代の社会関係：夫婦・親族・友人・近隣関係を中心に」(『社会文化研究』27 p.139-201. 広島大学総合科学部)

29. 知識・科学 (Knowledge, Science)

- 柄本三代子「身体知へ帰帰する専門家システム(〈特集〉21世紀の社会学へ：視点と構造)」(『社会学評論』51(4) p.430-446. 日本社会学会)

30. 余暇・スポーツ (Leisure, Sports)

- 朝水宗彦「オーストラリア」(徳久球雄(編)『地域・観光・文化』 p.152-165. 嵯峨野書院)

- 倉島 哲「武術教室における言語と実践：型稽古の記述のこころみ」(『スポーツ社会学研究』9 p.71-82. 日本スポーツ社会学会:法政大学出版局)
- トンプソン,リー「相撲の歴史を捉え返す」(『環:歴史,環境,文明』6 p.233-243. 藤原書店)
- Thompson, Lee; Guttman, Allen. "Educators, Imitators, Modernizers: The Arrival and Spread of Modern Sport in Japan" Nakano, Masataka. 'The European Sports History Review.' 3 p.23-48. Frank Cass.

31. 環 境 (Environment)

- 秋津元輝「“小文字の” 伝統を生きる：現代のライフスタイルとして」(『都市問題』92 p.3-14. 東京市政調査会)
- 浅野慎一「ポスト・ヒトゲノム時代の社会環境研究」(『ノルド・レポート』4 p.80-103. ノルド社会環境研究室)
- 浅野慎一「ポストヒトゲノムの社会環境論」(『人間科学研究』8 p.41-50. 神戸大学発達科学部人間科学研究センター)
- 船橋晴俊「環境問題の社会学的研究」(飯島伸子・鳥越皓之・長谷川公一・船橋晴俊(編)『講座 環境社会学 第1巻：環境社会学の視点』p.29-62. 有斐閣)
- 船橋晴俊「環境問題解決過程の社会学的解明」(船橋晴俊(編)『講座 環境社会学第2巻：加害・被害と解決過程』p.1-28. 有斐閣)
- 堀田恭子「公害,環境問題への社会学的アプローチ」(長崎大学文化環境・環境改築研究会(編)『環境科学へのアプローチ』p.220-230. 九州大学出版会)
- 堀田恭子「公害被害者の生活経験と被害者運動：新潟水俣病の事例より」(船橋晴俊(編)『加害・被害と解決過程』p.61-87. 有斐閣)
- 飯島賢志「概況報告「ごみと生活に関する意識調査」」(『論究』33 p.205-216. 中央大学大学院生研究機関誌編集委員会)
- 飯島賢志「環境をめぐる争点の構図：環境について何が議論されているのか」(『大学院研究年報 文学研究科篇』(30) p.153-164. 中央大学大学院生研究機関誌編集委員会)
- 池田寛二「環境問題をめぐる南北関係と国家の機能」(飯島伸子(編)『講座・環境社会学 第5巻:アジアと世界:地域社会からの視点』p.33-63. 有斐閣)
- 池田寛二「地球温暖化防止政策と環境社会学の課題：ポリテックスからガバナンスへ」(『環境社会学研究』7 p.5-23. 環境社会学会)
- 池田寛二・吉沢四郎・平岡義和・若林敬子・明日香壽川・李時載・細川弘明・寺田良一「環境問題をめぐる南北関係と国家の機能」(飯島伸子(編)『アジアと世界：地域社会からの視点』p.33-63. 有斐閣)
- 金菱 清「大規模公共施設における公共性と環境正義：空港不法占拠をめぐる」(『社会学評論』52(3) p.413-429. 日本社会学会)
- 満田久義「オランダ環境報告：環境先進国でのエコ・ライフを探る」(『佛教大学総合研究所紀要』(8) p.195-205. 佛教大学総合研究所)
- 満田久義「環境社会学の国際的動向：欧米の環境社会学」(飯島伸子・鳥越皓之・長谷川公一・船橋晴俊(編)『講座 環境社会学第1巻：環境社会学の視点』p.118-131. 有斐閣)
- Mitsuda, Hisayoshi; Fisher, Dona. "Environmental Sociology in Japan" Nakano, Masataka. 'Environment & Society.' (8) p.2-4. International Sociological Association. "Environment and Society".
- 宮内泰介「 commons の社会学：自然環境の所有・利用・管理をめぐる」(鳥越皓之(編)『講座環境社会学・第3巻:自然環境と環境文化』p.25-46. 有斐閣)
- 宮内泰介「環境自治のしくみづくり：正統性を組みなおす」(『環境社会学研究』7 p.59-74. 環境社会学会)
- 宮内泰介「住民の生活戦略と commons：ソロモン諸島の事例から」(井上 真・宮内泰介(編)『シリーズ環境社会学・2：commons の社会学:森・川・海の資源共同管理を考える』p.144-164. 新曜社)
- 宮内泰介「担いのシステムづくり：重層的 commons 論からのアプローチ」(『林業経済』54 p.24-28. 林業経済研究所)
- 中澤秀雄「環境運動と環境政策の35年：環境を定義する公共性の構造転換」(『環境社会学研究』(7) p.85-98. 環境社会学会)
- 中澤秀雄・三上直之・大堀 研・寺田篤生「『環境自治体』は環境ガバナンスを形成するか：鎌倉市の政策情報と市民活動を中心に」(『社会情報』11 p.113-126. 札幌学院大学社会情報学部)
- 須田直之「観光開発と環境保全」(『雪国環境研究』7 p.61-94. 青森大学雪国環境研究所)
- 杉本久未子「事業系一般廃棄物処理の現状：阪神間業者の聞き取り調査から」(『環境社会学研究』7 p.207-214. 環境社会学会)
- 高田昭彦「環境NPOとNPO段階の市民運動：日本における環境運動の現在」(長谷川公一(編)『講座 環境社会学第4巻:環境運動と政策のダイナミズム』p.147-178. 有斐閣)
- 田中昇平「環境指標の方法的基礎」(『経済と経営』32 p.1-33. 札幌大学経済学会)
- 轟 理恵子「し尿・ごみ問題に対する多様な主体の認識と公的セクターの役割」(『順正短期大学研究紀要』(29) p.25-37. 順正短期大学)

- 鵜飼照喜「地域開発と地域環境問題：沖縄の地域開発の展開と環境問題」(船橋晴俊(編) 『講座 環境社会学第2巻:加害と被害と解決過程』 p.89-116. 有斐閣)
- 鵜飼照喜「廃棄物行政の問題点」(鵜飼照喜(編) 『上山田町新山地区環境調査報告書』 p.22-24. 上山田町新山地区環境調査団)
- 鵜飼照喜「廃棄物処分場問題における自治体と住民運動」(飯島伸子(編) 『廃棄物問題の環境社会学的研究:事業所・行政・消費者の関与と対応』 p.61-92. 東京都立大学出版会)
- 吉沢四郎「タイの環境問題と日本のODA」(久保文克(編) 『タイ土着経済・社会の今日的位相:通貨危機をめぐる変容プロセス』 p.125-167. 中央大学出版部)
- 吉沢四郎「日本のODAとアジアの環境問題：タイ国を事例に」(飯島伸子(編) 『講座 環境社会学第5巻 アジアと世界:地域社会からの視点』 p.65-91. 有斐閣)

データベース委員会構成 (2000～2003年) 所属は本書発行時点

委員長	板倉 達文 (名古屋大学大学院環境学研究科)
副委員長	浅野 慎一 (神戸大学発達科学部)
委員	老川 寛 (広島国際学院大学現代社会学部)
委員	佐藤 裕 (富山大学人文学部)
委員	田中 重人 (東北大学大学院文学研究科)
委員	三重野卓 (山梨大学教育人間科学部)
委員	安田 雪 (社会ネットワーク研究所)
専門委員	岩本 健良 (金沢大学文学部)
専門委員	河村 則行 (名古屋大学大学院環境学研究科)
専門委員	田淵 六郎 (名古屋大学大学院環境学研究科)

(非売品： 本冊子を希望の方は、B5判の入る大きさの封筒に「冊子小包」と明記して切手180円分を貼り、返送先郵便番号・住所・氏名を明記し、下記の学会事務局まで送付してください。)

(ISSN 1345-580X)

社会学文献目録

Bibliography of Japanese Sociology (Vol. 4. 2001年版)

2002年11月10日 第1版第1刷 印刷

2002年11月10日 第1版第1刷 発行

編集： 日本社会学会データベース委員会

発行： 日本社会学会

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学文学部社会学研究室内

TEL 03-5841-8933 FAX 03-5841-8932

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jss/>

印刷： 株式会社平河工業社

© 2002 Japan Sociological Society

Database Committee Members (2000–2003)

Chair

Itakura, Tatsubun (Nagoya University)

Vice Chair

Asano, Shinichi (Kobe University)

Members

Oikawa, Hiroshi (Hiroshima Kokusai Gakuin University)

Satoh, Yutaka (Toyama University)

Yasuda, Yuki (Center for the Network Analysis)

Mieno, Takashi (Yamanashi University)

Tanaka, Sigeto (Tohoku University)

Special Members

Iwamoto, Takeyoshi (Kanazawa University)

Kawamura, Noriyuki (Nagoya University)

Tabuchi, Rokuro (Nagoya University)

Not for sale.

Those who want to get a copy of bibliography,
send an envelope (B-5 or legal paper size) with
180-yen postage stamp, your name and address
to Japan Sociological Society.

(ISSN 1345-580X)

Bibliography of Japanese Sociology

(Vol. 4. 2001 edition)

First Printing, November 2002

Editor Database Committee, Japan Sociological Society

Publisher Japan Sociological Society

Department of Sociology, University of Tokyo

7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, JAPAN

TEL +81-3-5841-8933 FAX +81-3-5841-8932

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jss/>

Printer Hirakawa Kogyosha., JAPAN

© 2002 Japan Sociological Society